

京都府埋蔵文化財情報

第100号

池尻遺跡第12次の発掘調査 -----	岡崎 研一 --	1
平成17年度京都府埋蔵文化財の調査 -----	小山 雅人 --	11
平成17年度発掘調査略報 -----		17
14. 野条遺跡第10次		
15. 池尻遺跡第14次・馬路遺跡第6次		
16. 長岡京跡右京第851次・下海印寺遺跡第22次・伊賀寺遺跡		
17. 長岡京跡右京第862次・下海印寺遺跡第24次・西山田遺跡		
18. 薪遺跡第7次		
府内遺跡紹介 106. 塚穴1号墳 -----		27
長岡京跡調査だより・96 -----		29
財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧 -----		31
センターの動向 -----		32
京都府埋蔵文化財情報総目次 -----		35

2006年7月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

いけじり 池尻遺跡第12次の発掘調査

岡崎 研一

1. はじめに

この調査は、国営農地再編整備事業「亀岡地区」に伴い、農林水産省近畿農政局の依頼を受けて実施した。池尻遺跡は、亀岡市北部の馬路町の北端に位置する。最近の発掘調査の成果によって一部遺跡範囲が改められ、東西約600m、南北約900mを測り、隣接する時塚遺跡と馬路遺跡に接するかたちとなった^(注1)。今回の調査地であるG地区は、遺跡南西部の亀岡市馬路町八反田他にあたる。

池尻遺跡周辺には、南丹波地域を代表する古墳時代中期後半築造の坊主塚古墳をはじめ、平成16年度に発見された、古墳時代中期後半から後期前半に築造されたと考えられる時塚古墳群^(注2)、古墳時代後期前半に築造された前方後円墳の千歳車塚古墳などがある。馬路町北方の呉弥山には、古墳時代中期～後期にかけての27基の古墳からなる池尻古墳群がある。また、池尻遺跡の北西部には、白鳳時代の寺院跡とされる池尻廃寺が存在する。

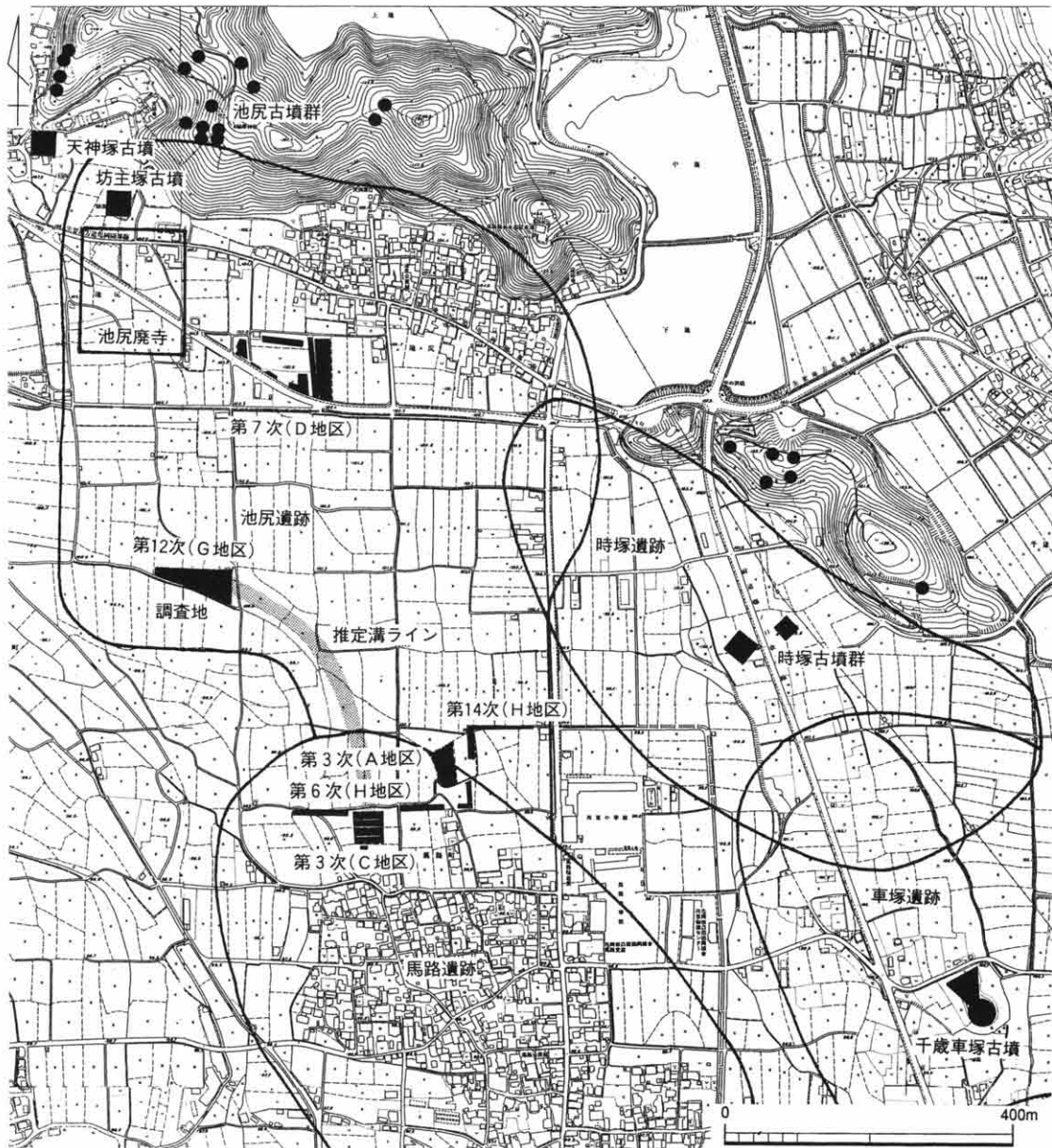
池尻遺跡は、現在の池尻の集落から南方に迫り出す低位段丘上に広がり、段丘端には現在でも約1mの段差が認められる。遺跡の範囲は、おおむねその地形の段差をもって南限と考えられる。これまでの調査成果から、遺跡中央にあたるE地区からは、弥生時代中期前半の方形周溝墓群が、遺跡北部中央のD地区からは、奈良時代後半の官衙遺構などが見つかっている。

また、遺跡の北西部では、京都府教育委員会と亀岡市教育委員会が、試掘調査と水路建設に伴う発掘調査を実施しており、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての竪穴式住居跡や奈良時代の大型の掘立柱建物跡などが確認されている。

このような発掘調査の成果から、古墳時代後期から飛鳥時代には、池尻遺跡のいたる所で竪穴式住居が営まれ、奈良時代には池尻廃寺周辺に掘立柱建物跡がまとまって存在していたことがわかってきた。



第1図 調査地位置図(国土地理院1/50,000京都西北部)



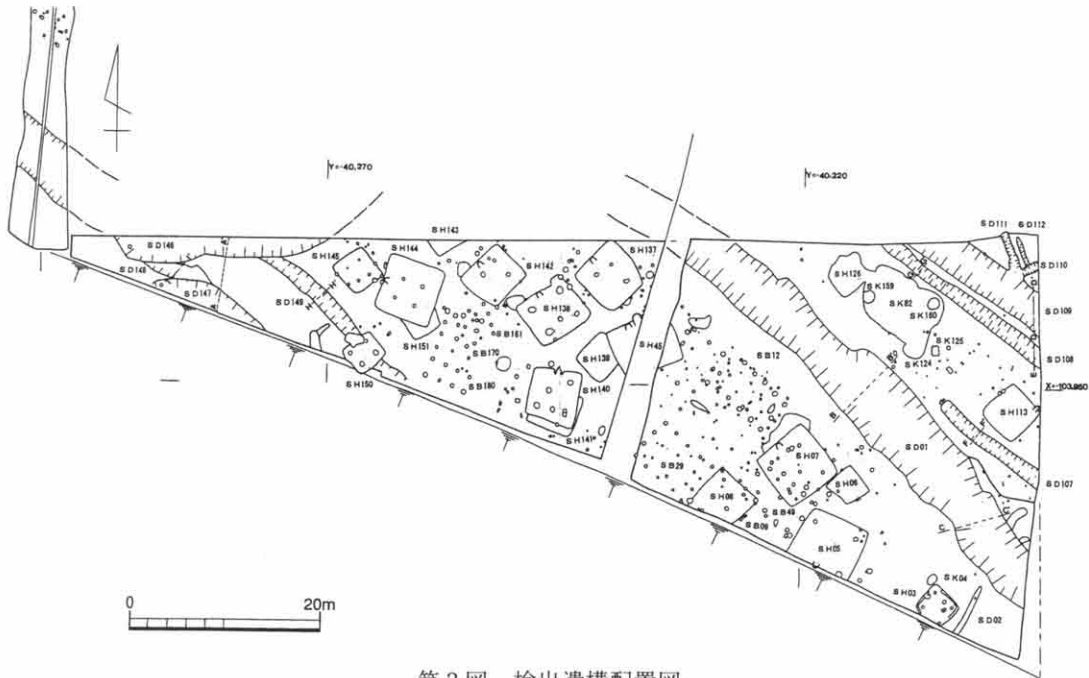
第2図 調査地および周辺遺跡分布図

2. 調査概要

京都府教育委員会が実施した試掘調査成果を受けて、約2,500㎡を対象に実施した。試掘調査では、古墳時代後期から飛鳥時代にかけての竪穴式住居跡や柱穴群や溝などが検出され、各遺構の規模を把握することを目的に約1,000㎡の調査を実施した。その結果、10基以上の竪穴式住居跡とそれを囲む幅約5m、深さ約2mを測る溝が検出された。

溝は、断面形が逆台形あるいは「V」字形を呈し、人為的な溝であることがわかった。柱穴群については、数棟の掘立柱建物跡が復原できた。その検出状況から、当地が豪族居館の一画であった可能性が高いと想定されたため、対象地全面に相当する約2,130㎡まで拡張し調査を実施することになった。

(1) 検出遺構



第3図 検出遺構配置図



第4図 調査地全景(上が北)

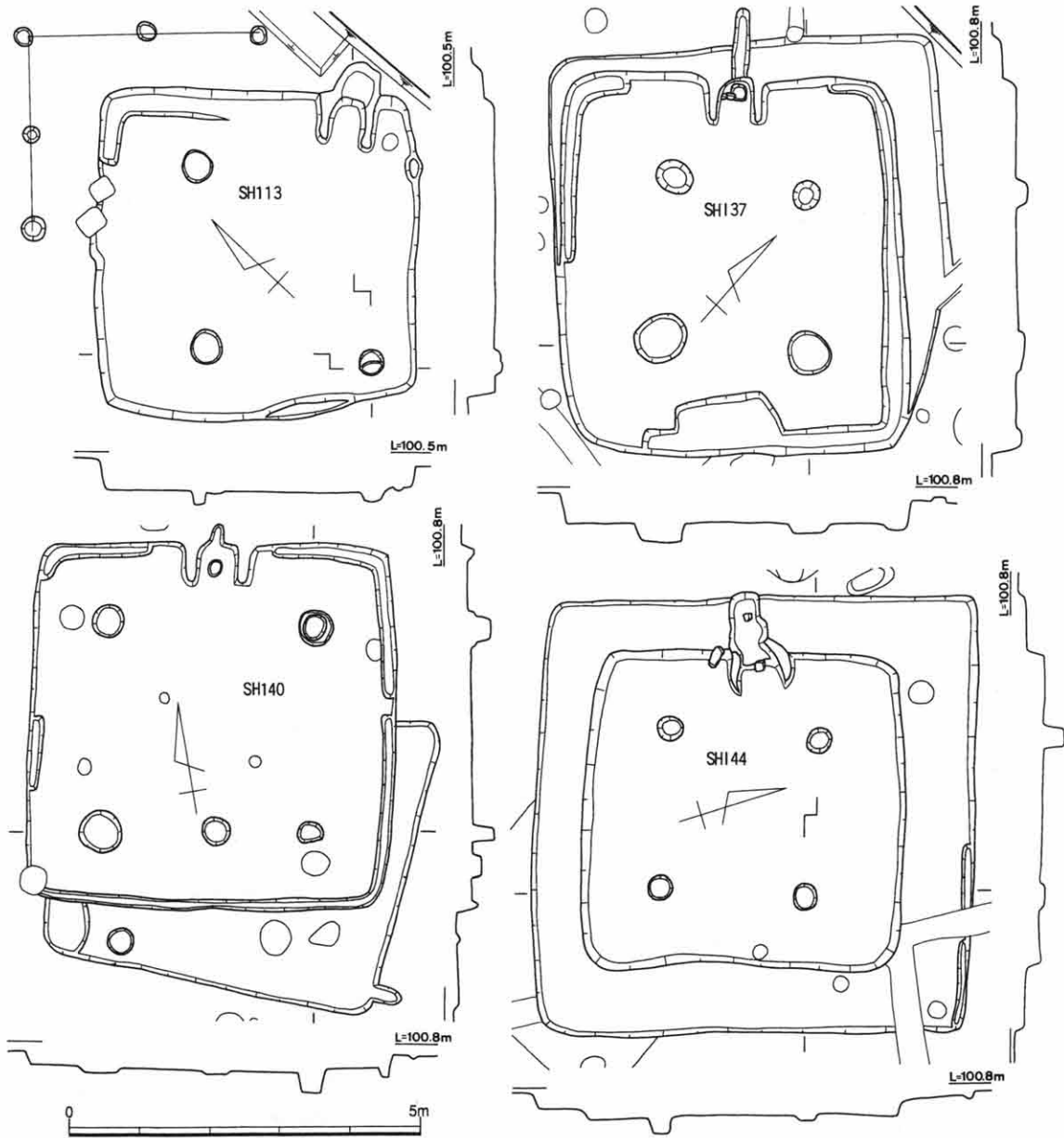
検出した遺構は、竪穴式住居跡20基・掘立柱建物跡10棟・溝12条・土坑5基などである。

1) 竪穴式住居跡

一辺3～7m、深さ10～40cmを測る。時期は、出土遺物から6世紀中頃～後半と7世紀中頃のものがある。住居の規模は、竈の付く辺×それと直行する辺(他辺)とした。主軸方向は竈のある辺に直行する方向とし、付表1に記した。

今回検出した竪穴式住居跡のなかで最も古い時期の住居跡は、竪穴式住居跡SH126で、6世紀前半～中頃の遺物が出土した。この住居跡は、北西辺中央に竈をもち、中央に石製の支脚を有する。また、住居跡内の堆積状況から、少なくとも3面の床面が確認できた。

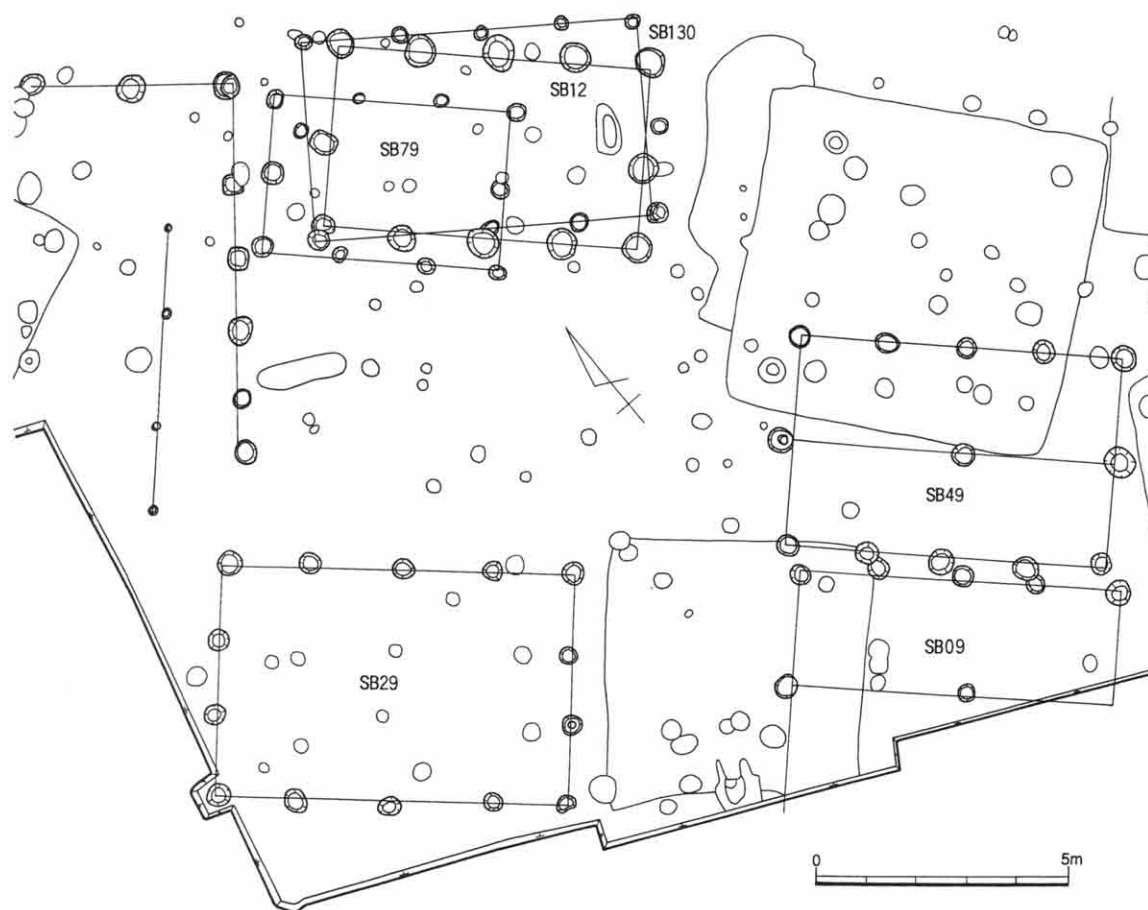
7世紀前半～中頃になると、竪穴式住居跡SH05・107・113・137・140などが造られる。竈は、



第5図 主要竪穴式住居跡実測図

付表1 竪穴式住居跡規模一覧表

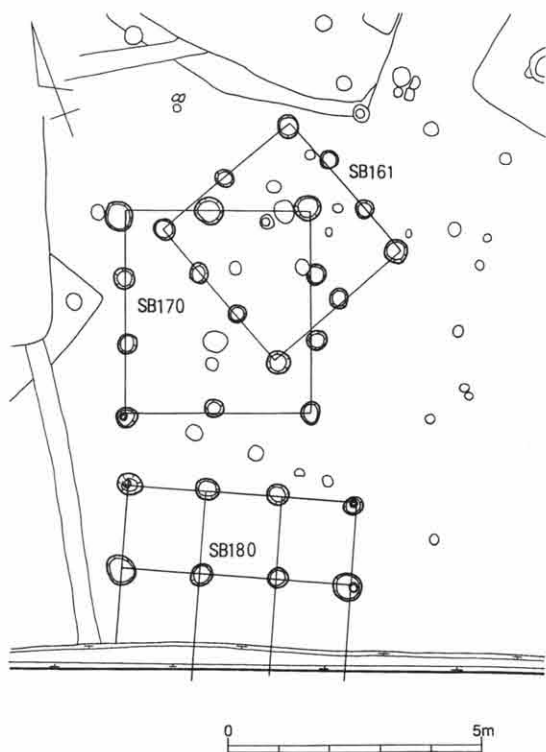
遺構名	住居規模		主柱穴間		主軸方位	竈 設置場所
	竈辺 (m)	他辺 (m)	竈辺 (m)	他辺 (m)		
SH 03	3.5	3.6	2.2	2.4	N46° W	北西辺中央
SH 05	7.0	約7	3.8	4.5	N156° W	南西辺中央
SH 06	3.2	3.6	—	—	N40° W	—
SH 07	6.4	6.6	4.6	5	N40° W	北西辺中央
SH 08	5.1	5.1	3.1	3	N138° W	南西辺中央
SH113	4.6	4.7	2.5	2.5	N44° W	北東辺東端
SH126	3.3	3.1	—	—	N44° W	北西辺中央
SH 45	6.5	5.8	3.7	3.1	N24° W	北西辺中央
SH137	4.7	5.3	1.8	2.3	N44° W	北西辺中央
SH138	5.8	5.3	3.4	3	N35° W	北西辺中央
SH139	4.0	3.7	3.0	2.4	N46° W	—
SH140	5.2	5.1	3.0	3.0	N84° W	北辺中央
SH141	4.8	4.3	—	—	N70° W	—
SH142	4.9	4.8	1.8	2.1	N48° W	北西辺中央
SH143	—	—	—	—	N35° W	—
SH144-1	6.1	6.1	—	—	N71° W	北西辺中央
SH144-2	4.6	4.5	2.1	2.2	N71° W	北西辺中央
SH145	3.7	3.6	1.5	1.8	N39° W	北西辺中央
SH150	3.6	3.3	2.1	1.8	N40° W	北西辺中央
SH151	3.5	—	2.5	—	N26° W	—



第6図 掘立柱建物跡実測図(1)

付表2 掘立柱建物跡規模一覧表

遺構名	形態	桁行	梁間	主軸方位
		(間・m)	(間・m)	
SB49	側柱	4 (6.3)	2 (4.2)	N44° W
SB09	側柱	4 (6.3)	1 (2.2) 以上	N42° W
SB12	側柱	4 (6.3)	2 (3.7)	N45° W
SB29	側柱	4 (6.8)	3 (4.6)	N43° W
SB130	側柱	4 (6.6)	2 (3.6)	N54° W
SB79	側柱	3 (4.4)	2 (3.0)	N47° W
SB161	側柱	3 (3.2)	2 (3.2)	N20° W
SB170	側柱	3 (3.9)	2 (3.7)	N75° W
SB180	総柱	3 (4.5)	2 (3.5) 以上	N67° W



第7図 掘立柱建物跡実測図(2)

竪穴式住居跡 S H05が南辺中央に、竪穴式住居跡 S H137が北西辺中央に、竪穴式住居跡 S H140が北辺中央に築かれていた。このうち竪穴式住居跡 S H137の竈は非常に残りが良く、煙道は長さ1 m、幅0.25mが認められた。竈の規模は幅約0.6m、長さ約0.7mを測る。竪穴式住居跡 S H140の竈も非常に残りが良く、地山を掘り込んで竈の袖部を築いていた。竈の規模は幅約0.8m、長さ約0.5mを測る。竪穴式住居跡 S H113は、北東辺東端に竈をもつ。竈の規模は、幅約0.6m、長さ約0.7mを測る。この住居跡の主柱穴は、竈近くの主柱穴のみが南寄りに付く。竪穴式住居跡 S H07は、今回検出した住居跡の中では大型である。住居跡の竈は北西辺中央に付く。

また、このほかに、竪穴式住居跡 S H06の床面から堅く赤色に焼けしまったか所が4か所で見つかった。火を使った作業場であったと考えられたため焼土直上の土を洗浄したが、鍛造剥片などの鍛冶に関連する遺物は確認されなかった。竪穴式住居跡 S H07・137・144の床面からは炭や炭化材が出土しており、焼失家屋であったと思われる。竪穴式住居跡 S H144は、建て直しが行われており、住居の規模を小さくしていた。主柱穴については、再利用したと思われる。

2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、側柱建物跡9棟、総柱建物跡1棟を検出した。建物跡の規模については、付表2に記した。

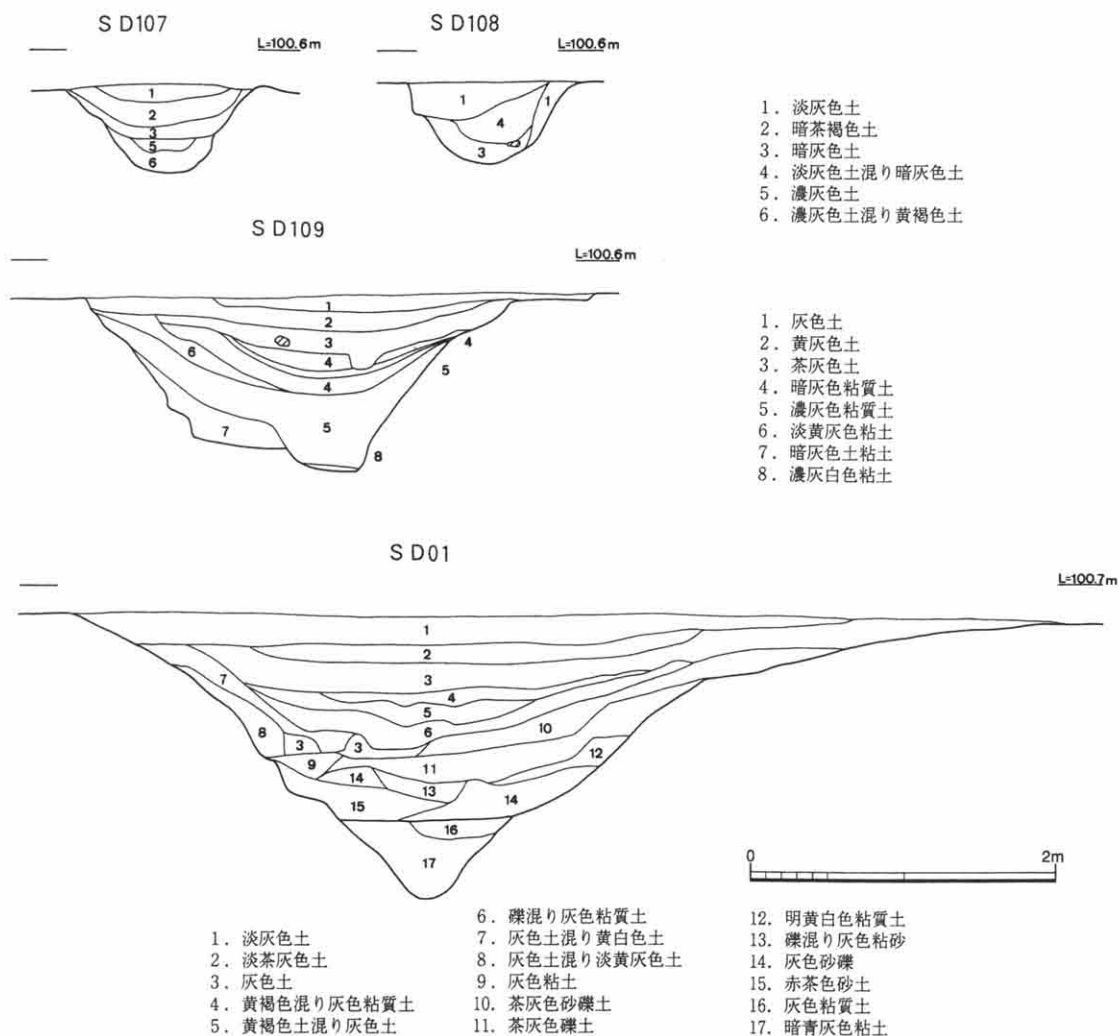
掘立柱建物跡は、大きく2グループに分かれる。一部、竪穴式住居跡 S H07・08を切る形で掘立柱建物跡を検出したが、その大半は竪穴式住居跡の空間地において検出している。大型で庇の付く建物などは検出されなかったことから、今回検出した掘立柱建物跡群は、中心的な施設でなく、倉庫などの付属施設であったと思われる。柱穴出土の遺物は破片で量も少なく、建物の時期については検討中である。

東側の掘立柱建物跡群は、建物の軸線がおよそN44°Wを測り、溝 S D01に平行することや、7世紀中頃の住居と考えられる竪穴式住居跡 S H07を切る形で掘立柱建物跡が見つまっていることなどから、掘立柱建物跡は7世紀中頃以降に建てられたものと考えられる。

3) 溝

調査地の北東・北西隅から12条の溝を検出した。溝 S D01は、断面形が「V」字形あるいは逆台形を呈し、上面から急傾斜で掘り込まれていた。規模は、幅約5 m、深さ約2 mを測る。同様の溝が調査地西側で検出され溝 S D146とした。上層の堆積状況や出土遺物から同一の溝と思われた。また、この溝は京都府教育委員会の調査地においても検出されている。このように溝は、部分的に検出されているのみの状況であるが、その全容を推察すると、南東方向の溝 S D146が調査地西端で大きく北東方向に屈曲し、竪穴式住居跡 S H143の北方約10m付近で再度、南東方向に屈曲して溝 S D01に通じていたと考えられる。このことから溝 S D01・146は、今回検出した居住域の東辺から北辺を画するように配された溝であったと思われる。

出土遺物や堆積状況からみて、溝 S D01は6世紀前半～中頃に掘削され、7世紀前半～中頃に再掘削が行われ、9世紀後半まで機能していたものと思われる。溝 S D01の主軸方位はN46°Wを測る。また、最下層から子持勾玉が出土した。



第8図 溝内堆積状況図

子持勾玉は、その形状から5世紀後半頃に作られたものと思われる。このような子持勾玉が溝S D01から出土したのは、伝世品であったため、何らかの祭祀を行った際に溝に投げられたと考えられる。調査地の北東隅でも溝S D01と同じ形状の溝S D109を検出した。下層からは6世紀の甕が出土しており、同時期には、居住域を部分的に2重に画していたものと考えられる。溝S D01と同様に、6世紀中頃と7世紀中頃の時期の遺物を含み、掘り直しが認められた大規模な溝や同時期の集落などは、馬路遺跡第3次調査のC地区でも確認されている。

今回の調査地で検出した溝S D01と馬路遺跡の両溝が繋がるかどうかは分からないが、現在認められる段丘に沿って広範囲に溝が築かれたものと思われる。段丘縁部付近では、6世紀前半～中頃と7世紀中頃の2時期に大規模な造成が行われ、集落が営まれたようである。

一方、溝S D107・108は、溝S D01と溝S D109間で検出した8世紀中頃の溝である。溝S D107は途中で途切れていた。溝S D107・108間は約9mを測り、主軸方向はN52°Wとほぼ平行関係であった。溝はわずかに湾曲しており、調査地の西側では西方を、東側では南東方向を向くと思われる。8世紀の中頃には溝S D01もまだ機能していたと思われることから、溝S D107が途切れた以西については溝S D01が続くものと思われる。溝S D01・108間は約12mを測る。これ

らの溝の間には8世紀中頃以降の時期の遺構が確認されておらず、平坦な空地であった可能性が高い。ここでは、路面などの検出には至っていないが、平行する2条の溝で区画された空間地に古道の存在を想定しておきたい。

池尻廃寺周辺からは、大型の掘立柱建物跡群の存在が最近の調査で明らかになってきており、この想定古道は段丘縁辺部から大型の建物群の南側を通る形となる。

4) 土坑

6世紀中頃の土器が出土した不定形な土坑(S K 82)や、四壁が赤色に焼け、床面に炭が認められた土坑(S K 125・159)がある。後者は、炭窯の可能性が高い。

3. 出土遺物

今回の調査で出土した主な遺物を第9図に掲載した。2～4は竪穴式住居跡S H 126出土、5・9～11は竪穴式住居跡S H 113出土、8・12は竪穴式住居跡S H 07出土、1・13は土坑S K 82出土、6・7・14・15・17は溝S D 01出土、16は溝S D 108出土、18は竪穴式住居跡S H 05出土である。子持勾玉は溝S D 01最下層から出土した。

1～15は須恵器、16は土師器、17は灰釉陶器、18は鉄器刀子である。各遺物の所属時期は検討の余地はあるものの、1～12は6世紀前半～中頃(陶邑編年M T 15～T K 10)と7世紀前半～中頃(T K 217)の土器と考える。これらの土器は、竪穴式住居跡や溝S D 01から出土したもので、遺構の時期を示すものである。なお、今回の調査で出土した遺物の大半はこの時期のものである。

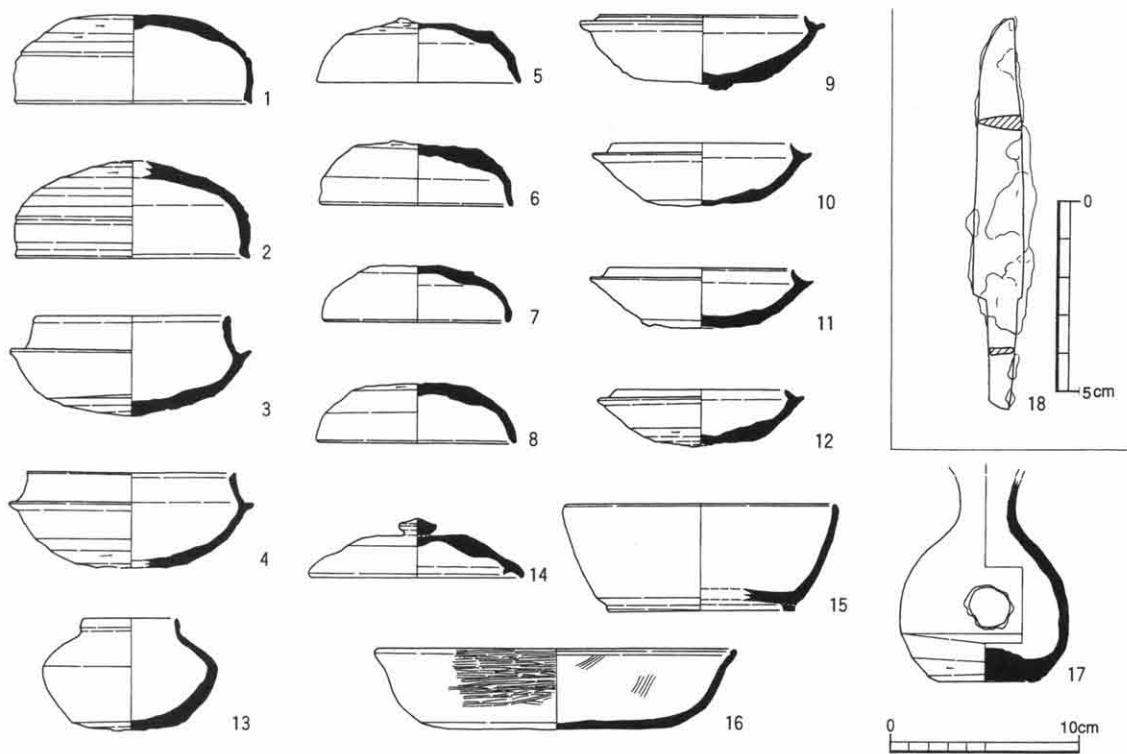
子持勾玉は、長さ10cm、幅7.3cm、厚さ4.8cm、重さ260グラムを測る。石材は、滑石である。勾玉の両側面・背部に2個ずつ、腹部に1個の計7個の勾玉が付く。形状から5世紀後半に作られたものと思われる。

4. まとめ

今回の調査では、大規模な溝によって東辺から北辺を区画された6世紀前半～中頃と7世紀前半～中頃の集落跡の一角を確認した。これに似た状況は、南側に隣接する馬路遺跡でも認められ、一帯では6世紀前半～中頃、7世紀前半～中頃の2時期に広範囲な造成工事が行われたことを示している。このことは、遺跡の立地する段丘上の本格的な開発(耕作地拡大)に大きく関係するものと考えている。

今回の調査成果から、段丘縁辺部に点在する池尻遺跡や馬路遺跡などの集落は、段丘崖付近を南辺～西辺とし、その背後を大規模な溝によって区画されていた景観が復原される。そうした場合、溝S D 01や溝S D 109など大規模な溝は、居住域を区画していたのみではなく、水係りの悪かった段丘上の耕地拡大に必要な水利に関わる重要な施設でもあったと考えられる。

詳細な検討は、改めて報告書作成時に行うこととするが、ここでは、一帯における段丘上の大規模な耕地の拡大が、6世紀前半～中頃、7世紀前半～中頃という2段階にわたって進められ、これに伴って水利関係の施設が大規模に造成されるとともに、いくつかの集落も段丘縁辺に計画



第9図 出土遺物実測図



第10図 子持勾玉(実物の約4/5)

配置されたのではないかと、という指摘をしておきたい。

一方、池尻遺跡の北西部には、8世紀中頃の大型の掘立柱建物跡群が規則正しく配されていたことが明らかになってきた。これらは、郡衙や国府などの官衙遺構とされ、当時中心的な場所であったとされる。^(注3)今回検出した溝S D108と溝S D107・01は、古道の両側溝であったと考えておきたい。両者の位置関係を見ると、古道はこれらの掘立柱建物跡群の南側を通ることになる。今後、この付近の調査に期待されることである。

子持勾玉の出土例としては、今回のものが京都府内5例目となる。京都市の山ノ内遺跡、加茂町の恭仁宮関連遺跡、舞鶴市の女布遺跡^{にょう}、向日市の山開古墳^{やまびらき}に次ぐ出土である。古墳時代中期に築造された山開古墳から出土した子持勾玉は良好なものである。山開古墳出土のものは蛇紋岩製で、長さ9.3cm、嘴と目を陰彫し、鳥を表現する。腹部に1個、両側面に2個、背部に3個の計8個の勾玉が付く。今回出土した子持勾玉は、山開古墳と並ぶものである。

以上、今回検出した遺構は、これまでの調査成果をふまえて、この地域の土地利用を考える上で重要な意味を有していると考えられる。今後、整理作業を進め詳細な検討を行って、改めて報告したい。

(おかざき・けんいち＝当センター調査第2課第1係専門調査員)

注1 藤井整「国営農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡平成16・17年度発掘調査報告」(『京都府埋蔵文化財調査報告書』平成17年度 京都府教育委員会) 2006

注2 福島孝行ほか「時塚古墳・時塚遺跡第6次の発掘調査」(『京都府埋蔵文化財情報』第94号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2004

注3 石崎善久「池尻遺跡第7次(D地区)の発掘調査—奈良時代の遺構を中心に—」(『京都府埋蔵文化財情報』第96号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2005

平成17年度京都府埋蔵文化財の調査

小山 雅人

1. 縄文時代

旧石器時代の報告はなく、縄文時代も遺構をともなう顕著な成果に恵まれなかった平成17年度であるが、京田辺市の^{たきぎ}薪遺跡で出土した石棒がその大きさと注目された。頭部の直径約18cm、長さ30cmが残っており、縄文時代後期と考えられる。



第1図 薪遺跡出土の石棒

2. 弥生時代

弥生時代では、宮津市江尻の^{なんばの}難波野遺跡で、全国で丹後地域にしかない弥生時代中期後半の^{ほうけいはりいしほ}方形貼石墓(貼石方形周溝墓)が2基検出された。今回で7例目となるが、1号墳の長辺は16.2mを測り、与謝野町の^{ひよしがおか}日吉ヶ丘遺跡例に次ぐ規模である。

京都市右京区の^{にしきょうごく}西京極遺跡では、複数の竪穴式住居跡のほかにも大型の溝が検出され、弥生時代中期から後期の環濠集落であった可能性が出てきた。

一方、左京区の^{いわくら}岩倉忠在地遺跡では、弥生時代後期末から古墳時代初頭の8基の竪穴式住居跡が確認された。また、八幡市の^{みやのせ}宮ノ背遺跡でも後期の集落が確認された。



第2図 難波野遺跡の方形貼石墓(1号墓：東から)

3. 古墳時代

乙訓地域で最大の前方後円墳、長岡京市の国史跡^{いげのやま}恵解山古墳(古墳時代中期)の調査で、後



第3図 上人ヶ平5号墳造出部の遺物出土状況(南から)



第4図 内田山B2号墳の埋葬施設と石枕(西から)



第5図 諸畑遺跡竪穴式住居跡の石組みの竈(南東から)

円部の輪郭とくびれ部の位置がほぼ明らかになった。

木津町の^{しょうにんがひら}上人ヶ平5号墳は、古墳時代中期の造り出しをもつ円墳であるが、今回2度目の発掘調査が行われた。円筒埴輪列が良好な状態で検出され、また全長26mと規模が確定した。

同じく木津町の^{うちだやま}内田山古墳群の調査では、一辺12mの方墳である内田山B2号墳から礫床の埋葬施設が検出され、勾玉や管玉などの多量の玉類のほか、内行花文鏡1面、竪櫛、鉄刀などの副葬品が出土した。この古墳は古墳時代中期の築造であるが、礫床や石枕の存在、一棺複数埋葬といった特徴は、日本海側の山陰から北近畿に多いことから、なんらかの関係が考えられる。

京田辺市の^{ほりきり}堀切古墳群は7号墳出土の顔に入れ墨のある人物埴輪で著名であるが、今回、1号墳が調査され、古墳時代後期の石室墳とわかった。全長9mの両袖式の横穴式石室は、南山城地域では最大級で、中央と直結するような有力者が埋葬されたのではないかとされている。

宇治市の^{こはな}木幡古墳群では6世紀後半の円墳が確認された。直径が26mと復原され、かなり大きな古墳である。埋葬施設は失われているが、周濠から石見型

埴輪などが出土した。

集落遺跡の発掘調査では、南丹波地域で顕著な成果が挙げられている。

南丹市八木町の^{もろはた}諸畑遺跡では、古墳時代前期の竪穴式住居跡から石組みの竈がみつき、一緒に出土した古式の須恵器などから、府内では最古の石組み竈とわかった。



第6図 池尻遺跡(第12次調査)の掘立柱建物跡群(南東から)

亀岡市の^{くらがいち}蔵垣内遺跡では、古墳時代前期の集落が確認された。この遺跡は継続調査中である。

亀岡市の^{いけじり}池尻遺跡では、6世紀を中心とする集落遺跡が調査され、集落内の大溝から子持ち勾玉が出土した。ほぼ完形品としては京都府で初めての例で、長さ10cmを測る。5世紀後半の製作と考えられている。



第7図 池尻遺跡出土の子持ち勾玉

4. 飛鳥時代

古墳時代前期の集落でもある蔵垣内遺跡では、飛鳥～奈良時代の竪穴式住居跡が15基分みつかっている。

山城町の^{こまでら}史跡高麗寺跡で金メッキされた塔の相輪の一部が出土した。また、塔と金堂の瓦積み基壇が検出された。瓦積み基壇は非常にていねいに積み上げられ、しかも極めて良い保存状態で注目された。また、同町の^{かみまんじ}蟹満寺で本堂の床下で行われた発掘調査で、国宝の本尊「釈迦如来座像」が7世紀後半の創建以来、位置の変動がなかったことが判明した。

京都市左京区の^{きたしろかわ}北白川廃寺(7世紀後半)では、以前からみつかった南北方向の回廊跡の延長にあたる西南コーナー部が検出された。回廊は、西側の塔跡と東側の金堂跡の間に位置しており、金堂だけを囲み、塔は回廊の外に独立して建っていたという白鳳寺院としては珍しい伽藍配置であった可能性が高い。

5. 奈良時代

加茂町の^{くにきゅう}恭仁宮跡の調査で大極殿跡の北東で東西43m、南北11mの範囲に及ぶ建物跡がみつかった。742年の正月に、大極殿が未完成のため四阿殿で年賀の行事を行ったとの記事が『続日本

紀』にあり、今回発見された建物が仮設の四阿殿であった可能性が高いが、柱の大きさや間隔が揃っていないので複数の建物が隣接して建っていたとの考え方もある。

奈良時代の左大臣橘諸兄創建と伝えられる井手町の井手寺跡^{いででら}で根石の痕跡が10か所でみつきり、金堂の位置がほぼ確定した。その結果、過去の調査結果もあわせると、法隆寺式の伽藍配置になるという。

6. 平安時代

向日市の長岡宮朝堂院跡^{ながおきみやうちようどういん}の調査で、南門の東西回廊の先端で楼閣建物跡を検出した。平安京にスライドすると、応天門の「翔鸞楼」^{しようらんろう}に相当する楼閣という。これまで宮の南に東西に走ると想定されていた二条大路がこの楼閣でふさがれる形になるので、長岡京条坊復原の見直しが必要になる。

向日市に所在する長岡宮内裏正殿跡^{だいらせいでん}の37年ぶりの再発掘が行われ、正殿の位置がより正確に測定された。

長岡京市の長岡京跡六条条間南小路の調査で怒り顔^{ひとがた}の人形が出土した。人形は穢れや病気を自分の身代わりに背負わせるもので、下半身が失われているが60～80cmと推定される。長岡京跡での人形の出土は珍しくないが、これほど大きいものは稀という。

福知山市の土遺跡^{つち}では、「田次」の墨書がある奈良・平安時代の土器が出土した。須恵器の転用硯も出土しており、一般集落とは異なる公的な施設の存在が想定される。

大山崎町の大山崎瓦窯跡^{おおやまざき}の調査では、6基の平窯や溝・土坑などが検出された。ここで製作された瓦はいずれも平安時代初頭のもので、平安宮・河陽院・嵯峨院に供給していたことが判明した。平成18年1月には、異例の早さで国史跡指定の告示があった。

亀岡市の篠窯跡群^{しの}に属する大谷3号窯^{おおたに}の調査では、平安時代前期後半(9世紀後半)に平安京に供給する当時的高级品緑釉陶器を生産していたことがわかった。

京都市中京区の高陽院跡^{かやのいん}の調査で庭園の池の南端が検出された。高陽院は藤原頼通の邸宅で、今回南北140m以上と判明した池の遺構は、上皇の住まいにあてられた後院である冷泉院を上回って、最大という。



第8図 上安久遺跡出土の鉄磬

亀岡市の蔵垣内遺跡では、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物跡5棟分や集石土坑が検出された。

舞鶴市の上安久遺跡^{かみあく}では、鉄磬^{てっけい}などの仏具が密教の儀式にのっとった形でみつきり、12世

紀後半の墳墓か経塚ではないかとみられている。その後、戦国時代にはこの丘陵は山城として利用された。

方形貼石墓が検出された宮津市の難波野遺跡では、平安時代後期～鎌倉時代初め頃の遺物も多く出土した。硯や墨書土器の存在は、地方官庁の存在を示唆する。



第9図 難波野遺跡3トレンチ上層遺構の検出状況(南から)

7. 鎌倉時代

長岡京跡右京第931次の調査で、掘立柱建物跡・階段状遺構・土塁状遺構などが検出され、鎌倉～室町時代の在地領主クラスの居館とみられる。土器溜まりから鎌倉時代の瓦器・土師器・山茶碗・東播系須恵器・讃岐や備前の陶器・貿易陶磁などが出土している。

福知山市の岡ノ遺跡で鎌倉時代の古墓が検出された。鉄製のかんざし・小刀・土師器のほか中国製の青磁も副葬されており、13世紀の墓と判断された。



第10図 岡ノ遺跡の古墓(北から)

8. 室町時代

京都市下京区で甕約200個を整然と並べて据えつけた店の跡が検出された。南北14m、東西14mの範囲は屋根で覆われていたとみられ、14世紀前半の酒屋の跡と考えられる。

笠置町の史跡笠置山で鎌倉時



第11図 史跡笠置山調査で認められた敷石状遺構(南から)

代後期の建物跡や防御の堀などが検出された。大規模な火災を示唆する焼土層もあり、鎌倉幕府の打倒を計画した後醍醐天皇が笠置城に立て籠もった「元弘の変」(1331年)を裏付ける成果として注目された。

京都市北区の鹿苑寺(金閣寺)での調査で礎石や柱の抜き取り穴などが検出された。金閣から40m東という位置から、足利義満の北山殿の寝殿などに付随した廊下とみられている。

京都市左京区の白川街区で、15世紀後半の建物跡が確認された。平安時代後期に栄えた六勝寺の衰退後に住みついた土豪の屋敷かとみられている。

京都市山科区の山科本願寺跡の調査では、直径約1.2mの大石(チャート)がみつき、蓮如が造ったとされる庭園に使われていた可能性もあるとされた。また、中国明時代の豆彩の技法を使った珍しい陶磁器片も出土している。さらに、当遺跡では初めてになる建物跡(15世紀後半)が検出された。

9. 江戸時代

京都市伏見区役所の建て替えに伴う伏見城城下町跡の調査では、桃山～江戸時代初頭の陶磁器・漆器を中心とする大量の遺物が出土した。

舞鶴市田辺城跡の発掘調査で、城主が細川氏から京極氏に変わる時期に三ノ丸跡の南東まで水田を埋め立てて武家屋敷が拡張されたことがわかった。出土遺物は、陶磁器・刀装具・簪・古銭など江戸時代のもので、特にその後半期のものが多い。

また、福知山市の岡ノ遺跡で江戸時代後期の地割りに一致する形で屋敷跡がみつき、福知山城の武家屋敷がこのあたりまで及んでいたことがわかった。

(こやま・まさと＝当センター調査第2課総括調査員)

14. のじょう 野条 遺跡 第10次

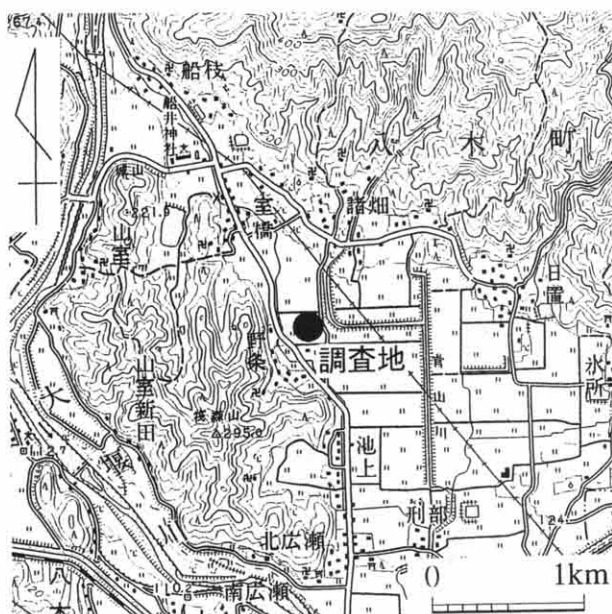
所在地 南丹市八木町室橋高畑
調査期間 平成17年10月24日～平成18年1月30日
調査面積 700m²

はじめに 野条遺跡は、亀岡盆地の北端に位置し、^{いかだもりやま}筏森山東麓の平地に形成された集落遺跡である。周辺には、弥生時代後期や古墳時代中期前半の住居跡を検出した諸畑遺跡や、弥生時代中期～奈良時代の大規模集落遺跡である池上遺跡など、数多くの集落遺跡や古墳などが分布している。野条遺跡では、過去9次にわたる発掘調査が行われ、弥生時代後期の竪穴式住居跡や平安時代から室町時代にかけての建物跡・溝などを検出している。

調査概要 調査は、まず事業予定地内に南北に長い調査区(第1トレンチ)を設定した。この調査区の北半部で建物跡や溝など多くの遺構を検出したため、さらにその北側に3か所の試掘トレンチ(第2～4トレンチ)を設けた。遺構の広がりや確認された第2トレンチについては、一部拡張して調査を進めた。調査地周辺は、全体に北から南へと徐々に低く傾斜する地形で、主に第1トレンチの北半部に遺構が密集する状況が確認できた。

(1)第1トレンチ 第1トレンチでは、掘立柱建物跡・井戸・溝などを検出した。南半部で検出した溝SD1や井戸SE3は、正方位に平行あるいは直交するように掘削されており、出土した土器から、平安時代後期(12世紀前半)の遺構群であることが明らかとなった。北半部で検出した掘立柱建物跡は、出土遺物は乏しいが、南半部の遺構群と主軸を一にし、南北方向に向きをそろえて建てられていることから、これらは同時期のものと推定される。なお、北半部では、建物群と斜交する、より古い時期とみられる溝SD7を検出した。

溝SD1 トレンチ中央部付近で検出した東西方向の溝である。幅1.6～1.9mの規模をもち、深さ0.6～0.7mを測る。この溝の北側で検出した掘立柱建物跡群と方位をあわせ、平行するように計画的に掘られていることから、屋敷地を区画する溝の可能性が高いと言える。溝の中からは、多数の



第1図 調査地位置図(国土地理院1/50,000京都市西北部)

土師器皿や瓦器碗のほか、東海系の須恵器鉢などが出土している。

(2)第2トレンチ 第1トレンチの北部に隣接し、平安時代の溝や柱穴を検出した。

溝SD201 トレンチ中央で検出した北西から南東方向にむけて掘削された大規模な溝である。幅約3m、深さ約0.5mを測る。溝からは、わずかに土師器皿や、須恵器片が出土しており、平安時代中期(10世紀頃)の溝と考えられる。

まとめ 今回の調査では、平安時代中期(10世紀頃)および後期(12世紀前半)の掘立柱建物跡や井戸、溝などを確認した。平安時代中期の遺構は溝を主とするが、後期の遺構には掘立柱建物跡や井戸などがあり、後期には、一帯に集落が営まれていたことが判明した。

第1トレンチで検出した弥生時代後期と推定される建物群は、正方位を向き、北半部で集中して検出した。この周辺が当時の屋敷地であったと推定される。また、東西溝SD1は、位置関係からみて、屋敷地の南限を区画する溝であったと考えられる。

調査地周辺では、現在、耕作地の畦畔は正方位を向き、一辺が1町(約109m)四方の方格地割が多く見られる。12世紀前半の遺構を周囲の地割に照らし合わせると、建物跡が同じ方位を向いていること、溝SD1が1町区画の中で半町を画する位置にあたることなどが判明した。このことから、周辺に残る地割は条里制に由来するものと考えられ、12世紀前半の集落は周辺の方格地割に沿って営まれたと推定される。また、12世紀前半の集落が、条里制に由来する地割に沿って営まれたと推定されるのに反して、10世紀頃の溝は、地割とは異なった方位を向いており、方格地割との関係を想定することはできない。今回の調査では、周辺の土地利用の大きな変革を明らかにすることができ、方格地割の施工時期を含めた周辺一帯の古代の土地開発を考えるうえで重要な資料を提供したといえる。

(高野陽子)



第2図 第1・2トレンチ全景(上が北東)

15. ^{いけじり}池尻遺跡第14次・^{うまじ}馬路遺跡第6次

所在地 亀岡市馬路町六反田、壁木ほか
 調査期間 平成17年12月19日～平成18年3月3日
 調査面積 1,300m²

はじめに この調査は、国営農地開発事業「亀岡地区」に伴うもので、農林水産省近畿農政局の依頼を受け実施した。調査対象地は、池尻遺跡と馬路遺跡にまたがっている。

池尻遺跡は、馬路町の北部に位置する。これまでの調査の成果から、遺跡北半部には、弥生時代中期初頭の方形周溝墓群や古墳時代後期～飛鳥時代の竪穴式住居跡、奈良時代前半の官衙と考えられる遺構などが存在することが判明している。今回の調査地は、遺跡の南東部にあたる。

馬路遺跡は、池尻遺跡の南側に位置し、馬路の集落を中心に広がる。これまでの調査により、弥生時代中期後半の方形周溝墓群や古墳時代後期～飛鳥時代の竪穴式住居跡、平安時代の溝・掘立柱建物跡などが検出されている。今回の調査地は、遺跡の北部にあたる。

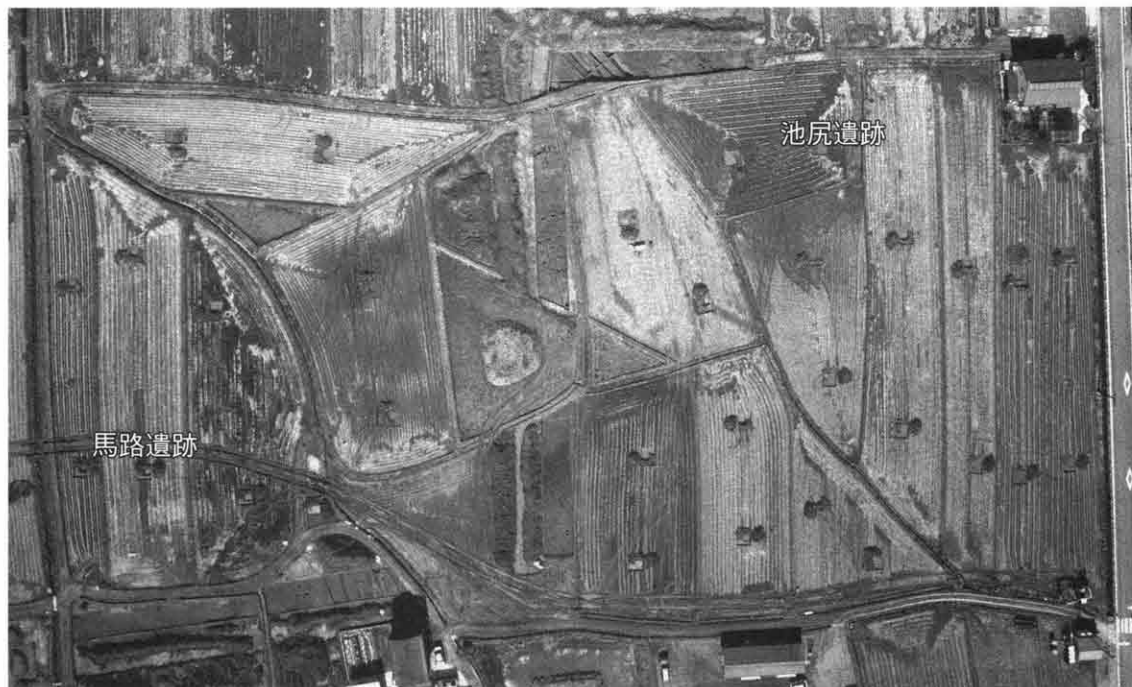
調査概要 今回の調査は、パイプライン敷設に伴うもので、ほぼ東西にのびる敷設予定地に沿って、遺構が分布する可能性が高い部分を調査した。その結果、調査地の東半部では、弥生時代中期後半(畿内第Ⅳ様式併行期)の方形周溝墓、奈良時代(8世紀)頃の北に向かってやや西に振る南北方向の溝や南北方向にのびる「く」の字状の溝、平安時代前期(9世紀頃)の掘立柱建物跡や柵列跡を検出した。

掘立柱建物跡は、北側に庇をもつ東西棟の建物で、建物全体の規模は確認できなかったが、母屋部は梁間2間、桁行2間以上とみられる。柱穴は一辺約0.8～1.0mの方形で、これまで周辺で見ついているものに比べ大型の建物跡である。柱間は約2.1mである。柵列跡は、掘立柱建物跡の北側で検出した。掘立柱建物跡と方向や柱間が同一であり、同時に存在したものと考えられる。

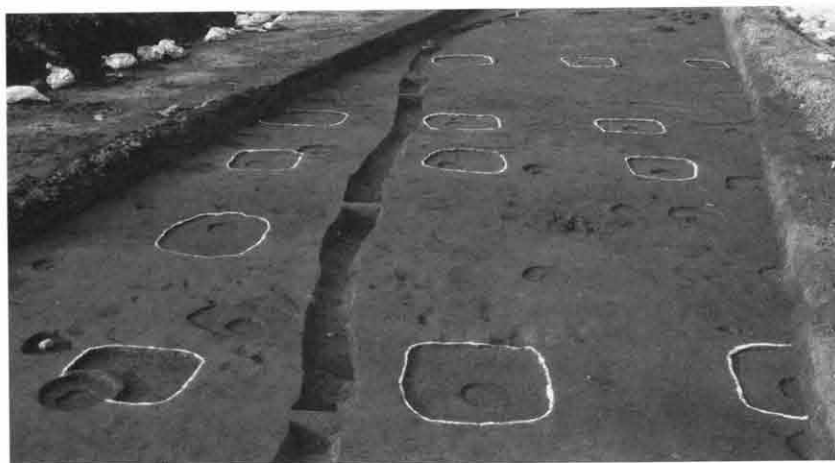
西半部では、飛鳥時代(7世紀頃)と考えられる方形竪穴式住居跡を検出した。一辺約3mと、竪穴式住居跡とするにはやや規模が小さく、他の遺構である可能性も考えられる。奈良時代(8世紀頃)以降の遺構としては、東西方向の溝を検出した。これまでの調査で検出していた溝の西側延長部と考えられる。



第1図 調査地位置図(国土地理院1/50,000京都市西北部)



第2図 調査地東半部(上が北)



第3図 掘立柱建物跡(南東から)

棟の底を有する建物である。これまでの調査で検出した掘立柱建物跡群は、やや規模の小さい南北棟の側柱建物や総柱建物である。柱穴の規模も考え合わせると、今回検出した建物跡は、中心的な建物の一つであった可能性がある。すなわち、これまでの周辺の調査で検出した建物群は、付属建物や倉庫などであったと考えられる。

調査地周辺には、東西南北の方位に沿った条里地割がみとめられる。この地割を仔細に観察すると、やや西側に振った畦などが処々にみられる。今回東半部で検出した奈良時代頃と考えられる溝群は、ほぼこの方向の畦などに沿う。また、この溝の方向は、調査地西側にある段丘崖の方向に一致する。さらに、時期の下る掘立柱建物跡の主軸もやや西に振る。これらのことから、中世頃に条里地割を施工したが、水まわりなどに不都合があったためか、部分的に古代の地形に沿った地割が復原されたものとも考えられよう。

まとめ 今回の調査は、線のかつ部分的であったが、弥生時代から平安時代頃にかけての遺構を検出した。これまでの調査成果を補完し、新たな知見も追加することができた。

今回東半部で検出した掘立柱建物跡は、東西

(引原茂治)

ながおかきょう
16. 長岡京跡右京第851次・
しもかいいんじ いがじ
下海印寺遺跡第22次・伊賀寺遺跡

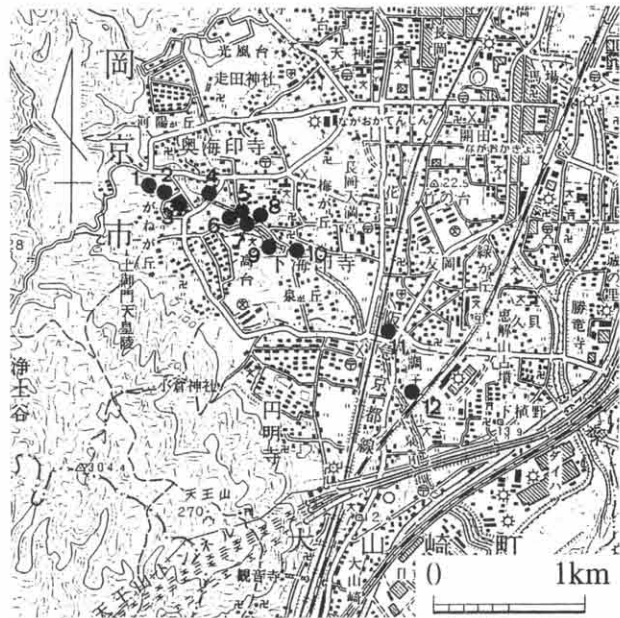
所在地 長岡京市友岡、調子八角、下海印寺ほか
調査期間 平成17年5月23日～平成18年2月27日
調査面積 2,000m²

はじめに 国土交通省近畿地方整備局は、京都西南部の交通事情の改善のため、京都第二外環状道路の建設を計画した。同道路は大山崎町から長岡京市域を北上し、京都市域に至るものである。長岡京市域の同道路建設予定地には古代の都である長岡京跡が所在し、縄文時代～中世にいたる集落遺跡も多数分布している。平成15年度以降、同道路の建設に先立ち、影響を受ける遺跡の実態を見極めるための試掘調査を行い、一部、本調査を実施している。

平成17年度の第二外環関連遺跡の調査は、下海印寺西条地区と尾流地区の2地区で本調査を実施し、奥海印寺片山田～調子八角に至る約2.2kmの間で試掘調査を行った。今回報告するのは、試掘調査の結果である。試掘調査は12地区に48か所のトレンチを設定して実施した。上内田地区以東は長岡京内に位置し、尾流地区は下海印寺遺跡内、川向井地区は伊賀寺遺跡の範囲内に含まれている。そのため、この一連の試掘調査は、長岡京跡右京第851次・下海印寺遺跡第22次・伊賀寺遺跡(第二外環状道路関係遺跡)の調査として実施した。

調査概要 片山田・荒堀・高台地区は山裾に位置した調査区である。いずれの地区の試掘坑でも、現代の盛土もしくは丘陵斜面からの流出土が旧表土上に厚く堆積していた。この下位には高位段丘を形成すると判断される砂礫層が広がっており、顕著な遺構は検出できなかった。また、片山田地区の近隣には、奈良～平安時代の須恵器窯跡(鈴谷窯跡)が周知されているが、同地区の試掘トレンチでは奈良～平安時代の土師器が数点出土しただけで、関連する遺構は確認できなかった。

火ノ尾・菩提寺地区は小泉川に近接した調査区である。現代盛土・旧耕作土・床土



第1図 調査地位置図(国土地理院1/50,000京都西南部)

1. 片山田 2. 荒堀 3. 高台 4. 火ノ尾
5. 駿河田(左岸) 6. 駿河田(右岸) 7. 菩提寺
8. 尾流 9. 上内田 10. 川向井 11. 友岡
12. 調子 (各調査地区)

の下位には、小泉川流路内堆積の砂礫が厚く堆積していた。この砂礫の粒径・堆積方向を土層断面で観察したところ、流路には古墳時代とそれ以前の2時期のものに分かれることが判明した。

駿河田(左岸)地区では、現代盛土下に旧耕作土・床土があり、この下位に旧小泉川水系に関わる砂礫・砂が厚く堆積しているのが認められた。出土遺物から、中世以後に田畑として土地利用が開始されたことが判明した。駿河田(右岸)地区では、近世段階の小泉川の川幅が確認できた。当初は幅約10mであったのが、ある段階で東側の約5mにわたって人為的に埋め戻され、川幅約5mに狭められたことが窺われた。

尾流地区の試掘調査では、3か所のトレンチを設定した。各トレンチとも1.8~2.0mの厚さで現代の盛土層が堆積し、その直下に造成以前の水田耕作土および床土が存在していた。北端と南端のトレンチではその下位で、長岡京期の可能性がある流路跡を確認した。埋土から、須恵器壺底部片、土馬片が出土している。この流路の下層にはそれ以前の流路が認められた。

上内田・川向井・友岡地区は、それぞれ、長岡京跡条坊復原によれば、右京七条四坊十二町、右京七条四坊五町、右京八条三坊五町にあたる。現代盛土・旧耕作土・床土の下位で、小泉川の旧流路内の砂礫が厚く堆積しているのを確認した。砂礫内からは、土師器・須恵器・瓦器片の破片が数点出土したが、器壁の磨滅が著しいことから、小泉川上流部からの流れ込んだものと判断される。砂礫内および耕作土・整地土内の出土遺物から、中世後半以降に田畑として土地利用されたことが窺われる。長岡京に関連する遺構・遺物は全く確認できなかった。

調子地区では、8か所の試掘坑を設けて調査を行った。北端の1トレンチでは東西方向の流路跡と多数の柱穴状の小ピットを検出した。小ピット内からは、奈良~平安時代の須恵器片や布目瓦片が出土した。流路を埋める土砂からも布目瓦片が出土していることから、調査地の近辺に瓦を葺いた建物の存在が窺われる。また、弥生土器片やサヌカイトの剥片などが出土した。南側の2~8トレンチは、1トレンチより1.5mほど標高が低い位置にあり、弥生~古墳時代の流路、中世の流路跡を検出した。特に、弥生時代中期~終末から古墳時代初頭の土器はさほど磨滅を受けておらず、近接した地点で廃棄された状況であった。

まとめ 上述のように、尾流地区および調子地区以外では、顕著な遺構・遺物は認められなかった。尾流地区では長岡京期に遡る可能性のある流路を確認し、流路内からは土馬の出土をみた。南約140mには長岡京の祭祀場として知られている西山田遺跡^{にしやまだ}があり、多数の土馬や墨書人面土器、ミニチュア竈などが出土している。この試掘地は西山田遺跡の上流に位置しているが、同遺跡の広がりを示すものとして注目される。

調子地区では、弥生時代中期~終末から古墳時代初頭の土器を含む流路跡と、布目瓦片を含む柱穴・小ピット群を検出した。調査地の北東方向には、弥生時代後期の竪穴式住居跡が調査されている^{はざま}。俗遺跡が分布しており、同遺跡の範疇で捉えられるものであろう。また、奈良~平安時代の柱穴・ピットを検出したことも、周辺に同時期の集落跡が包蔵されている可能性を示すものである。

(岩松 保)

17. 長岡京跡右京第862次・ しもかいいんじ 下海印寺遺跡第24次・にしやまだ 西山田遺跡

所在地 長岡京市下海印寺尾流
 調査期間 平成17年11月7日～平成18年2月22日
 調査面積 1,280m²

はじめに 今回の調査は、京都第二外環状道路建設事業に係わる事前調査として、国土交通省近畿地方整備局の依頼を受けて実施した。調査地は、長岡京跡右京七条四坊十四町、西四坊大路にあたるとともに、下海印寺遺跡の範囲に含まれる。下海印寺遺跡では、縄文時代後期の土坑や集石遺構、旧石器時代のナイフ形石器などが発見されている。また、小泉川を挟んだ対岸には、墨書人面土器・土馬・ミニチュア竈などの祭祀遺物が多数出土した西山田遺跡があり、長岡京期に祭祀が行われた場所として知られている。

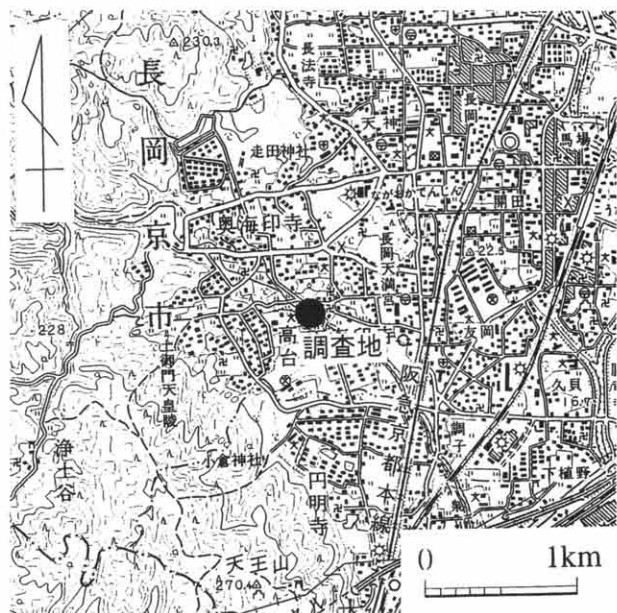
調査概要 昨年度の試掘調査の結果をもとに、3か所の調査区(第2～4トレンチ)を設定した。調査の結果、竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・溝・多数の土坑を検出した。

(1)第2トレンチ 竪穴式住居跡SH13は2回の建て替えがあり、その重複関係から先行するものをSH13-A、後出のものをSH13-Bと仮称した。SH13-Aは、4.2m×4.0m、ほぼ正方形を呈する。住居内の西辺中央部で焼土・炭・土師器がまとまって検出され、床面では支柱穴が4か所で確認できた。6世紀前半代の須恵器杯、土師器が出土している。SH13-BはSH13-Aと同様、平面形は正方形で、焼土・炭、土器類(土師器、須恵器杯蓋)などが西辺中央部にあるが竈はなかった。この2基の住居跡は時期差がほとんどなく、6世紀前半代のものである。

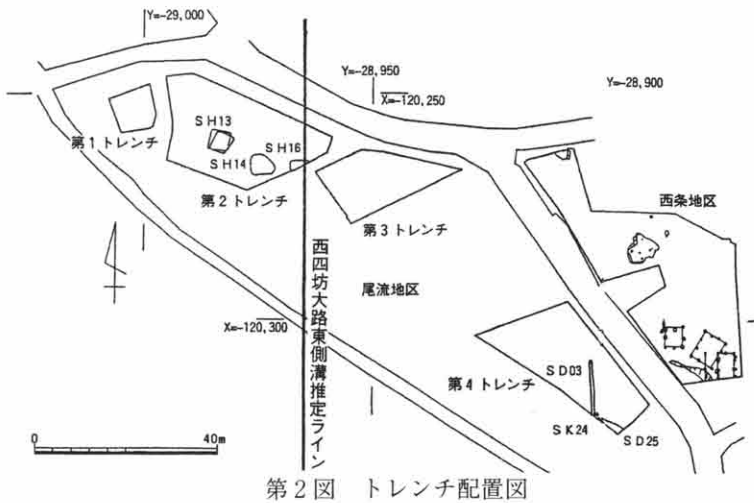
竪穴式住居跡SH16は、トレンチ東端で検出した東西4.3m以上の方形住居跡である。北辺部には、焼土・炭化物・土師器甕片が密集していたが、竈の本体は見つからなかった。土師器甕・須恵器杯などがあり、前述の2基の住居跡の時期と同様、古墳時代後期のものと思われる。

土器溜まりSX45は、弥生時代後期の土器が長さ2m、幅0.5mの溝から密集して出土した。ほぼ完形品に近い甕・壺・鉢などがまとまっており、人為的に埋められたものと考えられる。

(2)第3トレンチ 柱穴群は柵列あるいは



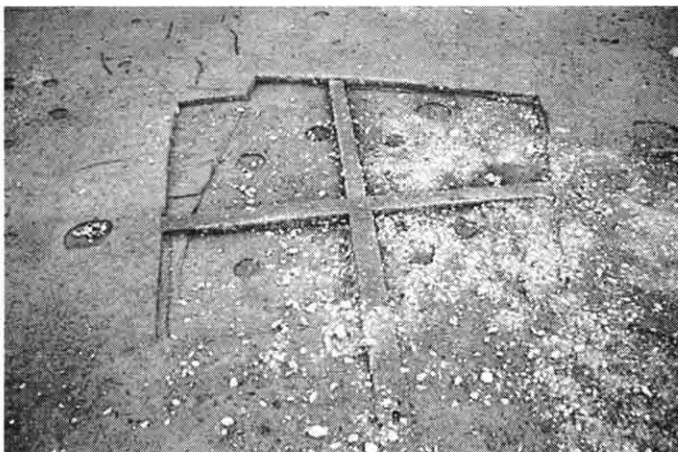
第1図 調査地位置図(国土地理院1/50,000京都西南部)



第2図 トレンチ配置図

竪穴式住居跡の主柱穴と思われるものを含め10数基の柱穴を検出した。柱穴のいくつかには土器の細片が含まれており、古墳時代以降で平安時代までのものと考えられる。

(3)第4トレンチ 溝S D03は検出長10m、幅0.8～1m、深さ0.4mを測り、ほぼ真南北方向を示す素掘り溝である。



第3図 竪穴式住居跡S H13-A・B(南から)

奈良～平安時代の土師器や須恵器の小片が多数出土しており、溝はこの時期に属するものと思われる。

土坑S K24 溝S D03の南端の東側に隣接して検出した。平面形は長方形を呈し、長辺1m、短辺0.6m、深さ0.4mを測る。出土遺物には、土師器・須恵器の細片がある。この土坑の埋土は、溝S D03の埋土と近似しており、奈良・平安時代のものである可能性が高い。



第4図 第4トレンチ溝S D03(北から)

溝S D25は、溝の肩がトレンチ外のため規模は不明である。古墳時代から長期間、滞水と流水が繰り返され、平安時代には埋没したものと思われる。

土坑S X04は、長楕円形を呈し、弥生土器(甕・壺・高杯)が密集して出土した。廃棄土坑である。

まとめ 土器溜まりS X45や土坑S X04が確認されたことから、弥生時代後期の集落が近辺に存在していたことが窺える。また、古墳時代後期の竪穴式住居跡を3基検出し、下海印寺遺跡の南端、小泉川の縁辺部での集落の様相が確認できた。溝S D03、土坑S K24などはほぼ真南北方向に掘られ、また、調査地の東側の西条地区でも、主軸が真南北を向く掘立柱建物跡2棟や柵列が検出されており、これらの建物跡や溝については、明確な時期を示す遺物は出土していないが、長岡京期に含まれる可能性がある。

(竹井治雄)

18. ^{たきぎ}薪遺跡第7次

所在地 京田辺市新巽2番地ほか
 調査期間 平成17年9月26日～平成18年2月27日
 調査面積 2,500m²

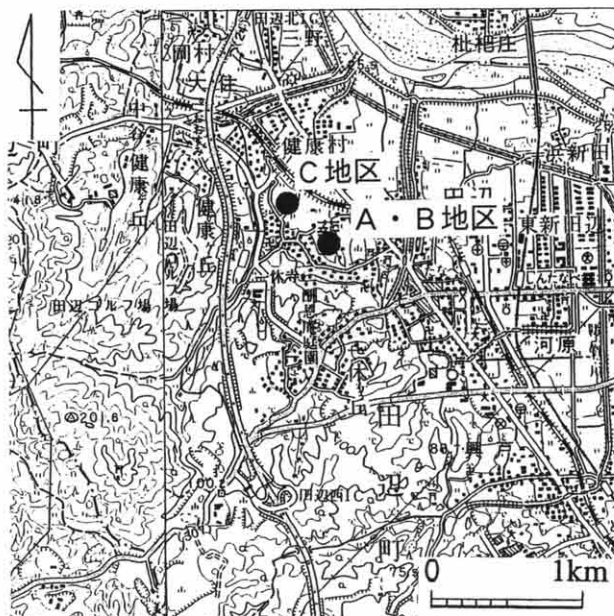
はじめに 今回の調査は主要地方道八幡木津線道路整備促進業務に伴うもので、京都府土木建築部の依頼を受けて実施した。薪遺跡は縄文時代から鎌倉時代という長期にわたって営まれた集落遺跡であり、その遺跡の範囲はおよそ900m四方という広範囲におよんでいる。

薪遺跡ではこれまで7次にわたる発掘調査が行われている。第1・2次調査は京田辺市教育委員会が実施したもので、第3次調査から今回の第7次調査は、本道路整備事業に伴い、平成13年度から当調査研究センターが実施している。

今回の発掘調査は事業予定地内の3か所(A・B・C地区)で実施した。A・B地区は、平成16年度の第6次調査で縄文時代の竪穴式住居跡などを検出した調査地に隣接しており、この時期の集落跡の広がり確認されるものと期待された。C地区は、平成14年度の試掘調査(第4次調査)で古墳～鎌倉時代の遺物包含層や、その下層で縄文時代の遺構の存在が認められていた。

調査概要 調査の結果、A地区では、縄文時代と奈良・平安時代の遺構を検出した。縄文時代の遺構としては、10基の土坑を検出した。土坑は平面形が全て円形もしくは楕円形で、規模は直径1.3m前後、深さ0.7m前後を測る。埋土内から縄文土器片が出土した。奈良・平安時代では、掘立柱建物跡2棟(SB06・07)、土坑1基(SK01)を検出した。

掘立柱建物跡SB06は、東西2間(約5.1m)、南北3間(約6.3m)以上の南北棟の建物である。建物の主軸はほぼ真北を向いている。掘立柱建物跡SB07は、東西3間(約5m)、南北5間(9m)の南北棟の建物である。建物の主軸は真北から西へ約15°振れている。土坑SK01は長方形土坑で東西約2m、南北約5mを測る。埋土内からは、須恵器や土師器の杯・皿などの食器類が多数出土したほか、製塩土器、瓦片なども認められた。なお、土坑SK01は奈良時代の掘立柱建物跡SB07の柱穴と一部重複し、建物の廃絶後に土坑が設けられていることを確認した。



第1図 調査地位位置図
 (国土地理院1/50,000大阪東北部・奈良)



第2図 C地区全景(上が東)



第3図 掘立柱建物跡 S B 07(北東から)



第4図 石棒の出土状況(北西から)

B地区は、昨年度の調査で縄文時代中期の竪穴式住居跡を検出した調査区の北延長部に設けたトレンチで、中世以前と考えられる流路跡を検出した。

昨年度検出した縄文時代の竪穴式住居跡から北西方向に約250m離れたC地区では、縄文時代後期の土坑 S K 18 や同時期の流路跡 S R 15を確認した。特に流路跡 S R 15からは多数の縄文土器とともに石棒や石皿が出土した。また、流路跡 S R 15の上層では中世の流路跡 S R 16・19を確認した。

まとめ

- ① 今回のA地区の調査によって平成16年度の第6次調査で竪穴式住居跡の南側で検出した縄文時代中期末の土坑群は、さらに南側へ広がることが明らかとなった。
- ② A地区では、建物の主軸方位が異なる奈良時代の掘立柱建物跡を2棟確認した。また、掘立柱建物跡 S B 07の東側に接する長方形土坑 S K 01からは墨の付着した須恵器の杯が出土した。
- ③ C地区では縄文時代後期の土坑や流路跡のほか中世の流路跡を確認した。特に縄文時代後期の土坑や流路跡から出土した縄文土器は、あまり磨耗していないことから、A地区付近とは別に、この流路付近にも縄文

時代のムラが存在したことが考えられるようになった。流域内の堆積土中から石棒が出土したことから、このムラでは石棒の出土から、石棒を使用したマツリがとり行われていたことが想像できる。

(柴 暁彦)

106. 塚穴 1 号墳

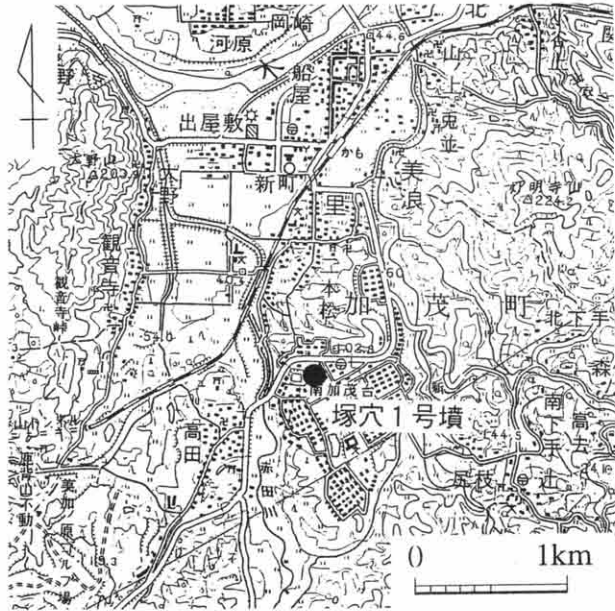
加茂盆地は、木津川の一支流である大野川によって形成された沖積平野である。

今回ここに紹介する塚穴1号墳は、加茂盆地の東方に展開する丘陵地の一角に営まれた古墳で、京都府相楽郡加茂町大字高田小字塚穴に所在する。

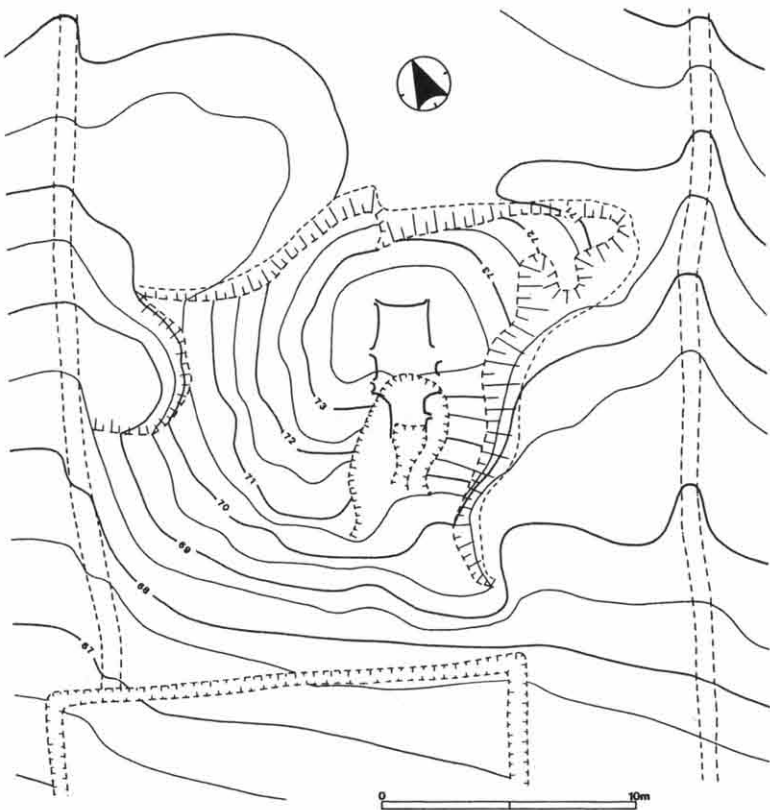
塚穴1号墳は、北東側が高く、南西側にゆるやかに傾斜する、丘陵斜面に営まれた方墳で、墳丘の北側および東側は、大きく抉られていて、旧状をとどめていないが、墳頂部から南西部にかけての付近の等高線の走り具合などからみて、一辺21m、高さ4.5mの規模の方墳であることがわかる。

なお、近接して径約15mの円墳で、片袖式横穴式石室を内部主体とする塚穴2号墳が所在している。

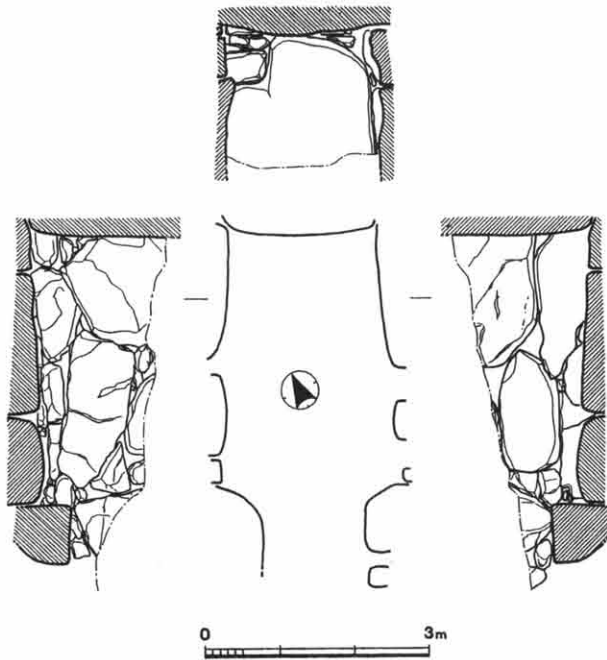
塚穴1号墳の主体部の横穴式石室は、全長4.8m、玄室長3.3m、玄室奥壁部幅1.95m、玄室玄門部幅2.4m、羨道部幅1.35mの規模を測る両袖式横穴式石室で、南南西方向に開口している。現状での石室の高さは、奥壁部で約1.8mを測るが、石室本来の高さは、2.5m前後と推定復原できる。用材には、花崗岩の巨石を使用しており、玄室の天井石は、巨石3石を横架して構築され



第1図 位置図(国土地理院1/50,000奈良)



第2図 塚穴1号墳測量図



第3図 塚穴1号墳横穴式石室実測図

ている。奥壁は、幅2m以上、高さ1.8m以上の巨石1石を立てて構築されている。

築造年代は、墳形や石室の形状などから、6世紀中葉～後半にかけての頃と推定される。その当時、加茂盆地一帯を治めた首長層の奥津城の一つとみられるもので、南山城では他に類例を見ない、巨石構造の横穴式石室が完存する、貴重な遺跡である。

なお、古墳のある丘陵地は、現在はニュータウンと化しているが、築造当時の地形は大きく損なわれているが、先述の2号墳とともに古墳とその周囲の地形は、都市公園の中に現状で保存されている。見学するにあたっては、JR加茂駅からJR・近鉄奈良駅行きの路線バス(奈良交通)



第4図 南からみた塚穴1号墳

に乗り、塚穴公園バス停で下車する。バス停から北へ徒歩1～2分で塚穴公園に行き当たる。古墳は、公園内のテニスコートの北側、加茂町ふれあいセンター東側の山林の中にある。

(奥村清一郎)

参考文献 奥村清一郎「南山城の後期古墳(3)」(『京都考古』48) 1988



第5図 古墳の東側に設置された説明版

毎月1回実施される長岡京連絡協議会の平成18年1月～4月までの例会では、宮内5件、左京域2件、右京域10件、および京域外2件の調査に係る報告があった。

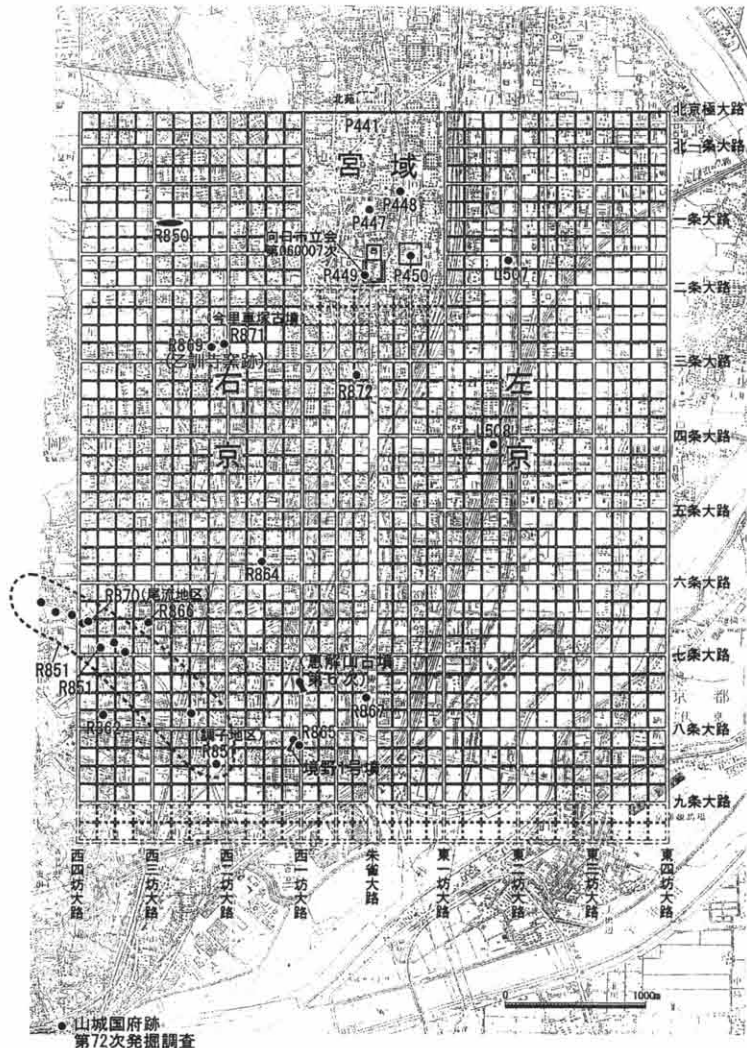
長岡京跡発掘調査抄報

宮域 第2次内裏正殿の調査(宮第450次)では、37年前(1966年)に検出されていた内裏正殿について、国土座標に基づく正確な位置の把握を目的として調査が実施された。内裏正殿は、亀腹に近い低い基壇をもつ檜皮葺の掘立柱建物跡で、桁行11間、梁間5間の隅欠き四面庇の建物型式に復原されている。今回の調査では、その南東部で、柱間が3.0m(10尺)等間の南庇を構成する柱穴(掘形一辺1.5m、柱径50cm)を7基、身舎東側柱(妻柱)に関わる柱穴(掘形一辺1.7m、柱径60～70cm)2基、外護施設として凝灰岩切石を用いた側溝の地覆石に伴う溝状の抜き取り痕跡、およびその外周に広がる小

礫敷の一部が再確認された。また、庇柱列に近接して平行する解体用の足場穴とみられる柱列や、正殿の測量基準柱であり地鎮にも利用されたとみられるピット状土坑などの新たな発見もあった。内裏正殿の位置は、座標値によると第2次内裏地区の対角線交点よりも南方へ修正され、内裏の東西中軸線上で、その中間点(内裏中心)から南方へ36m(120尺)の地点に、正殿南庇の柱通りの線が直行することが判明した。

朝堂院北方官衙地区では、大極殿を中心に配した宮域の東西中軸線北延長部の宮第447次調査で、長岡京期の遺構として、幅約1.2mの東

西溝と、これに取り付く約



調査地位置図

(向日市文化財調査事務所・(財)向日市埋蔵文化財センター作成の長岡京条坊復原図に加筆) 調査地はPが宮域、Rが右京域、Lが左京域を示し、数次は次数を示す。

2.2m(7尺)間隔で平行する幅約0.4~0.8mの南北溝が検出された。いずれも、掘削後直ぐに埋め戻されている。このうち東西溝の位置は、右京域の一条大路の西側延長線に近接しており、宮内一条大路の通過想定地近傍に位置する。仮にこれが二条大路と同じ150尺規模の路面幅であれば、北側溝位置に合致する。

朝堂院西第三堂の調査(宮第449次)では、2基の柱根石基礎部分と、建物外周をめぐる凝灰岩切片や瓦を含む地覆関連の溝状遺構が正確な座標値で確認された。とくに、建物基礎の構造については、根石部分の詳細な観察結果から、円丘状基礎→「かまぼこ」状基礎の複次にわたる構築過程が明らかとなった。

左京域 長岡京北西部の大原野地区に位置する右京第850次調査では、一条大路の南側溝とこれに南面する宅地の遮蔽施設(築地添柱・築地内溝)が確認されるとともに、掘立柱建物跡数棟が検出された。このうち、九町域の東西中軸線北寄り付近に位置する2間×4間の南庇付きの東西棟建物跡は、身舎の屋舎内に径約1mの甕を据え付けた12基の穴が方眼状に規則正しく配列されており、収蔵施設と推定される。また、これまでの調査区において広く確認されている古墳時代の集落に関連しては、竪穴式住居跡や集落の外縁を区画する弧状溝などが検出された。

左京第507次調査では、中世の耕作関連溝の下層で、土坑状遺構から弥生時代中期初頭(畿内第Ⅱ様式初)の土器がまとまって出土した。

右京域 右京第864次調査では、六条条間南小路の南北両側溝(路幅約9m)、およびその北に接する十二町域において掘立柱建物跡数棟が検出された。小路両側溝(幅約1.4~1.7m)の埋土中から多数の遺物が出土し、中でも「徳」と書かれた墨書土器(土師器皿)や大形の人形木製品は注目される。なお、長岡京期の遺構面を構成する土層からは、古墳時代の土器類や埴輪、縄文土器、ナイフ形石器などが出土している。

京の西端に近い右京第866次調査では、多数の中世前期の掘立柱柱穴と奈良時代の柱穴と土坑が検出され、周囲に広く展開する京造営以前の一連の遺構群との関係が窺える。

乙訓寺の講堂跡とみられる遺構が検出された乙訓中学校の東隣接地に位置する右京第869次調査では、昭和41(1966)年に発見され現状保存されてきた瓦窯跡の再調査が実施された。残存するのは焼成部の奥壁付近に限られるが、7本の空気通穴(ロストル)をもつ内法幅2.1mの平窯であることが改めて確認された。軒瓦は出土していないが、窯の構造から、乙訓寺創建時までは遡らず、奈良時代の補修瓦所用窯の可能性が高い。

京域外 山城国府跡第72次調査では、厚い盛土層の下で中世の集石遺構や根石をもつ柱穴が検出された。古代に遡る遺物の出土があったが、当該期の遺構面までいたらなかった。

(伊賀高弘)

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧

(平成18年6月1日現在)

理事長

上田 正昭
(京都大学名誉教授)

副理事長

中尾 芳治
(恭仁宮跡調査専門委員会委員長)

常務理事

中西 和之

理事

石野 博信
(徳島文理大学教授・香芝市二上山博物館館長)

井上 満郎
(京都産業大学文化学部教授)

都出 比呂志
(大阪大学名誉教授)

中谷 雅治
(元京都府教育庁指導部理事・文化財保護課長)

高橋 誠一
(関西大学文学部教授)

増田 富士雄
(同志社大学工学部環境システム学科教授)

上原 真人
(京都大学大学院文学研究科教授)

下田 元美
(京都府府民労働部文化芸術室長)

宮野 文穂
(京都府教育庁指導部長)

小池 久
(京都府教育庁指導部理事文化財保護課長事務取扱)

監事

大槻 茂
(京都府出納管理局長)

池田 博
(京都府教育庁管理部長)

事務局長

総務課

課長

総務係長

主任

専門調査員

中西 和之

安田 正人

杉江 昌乃

今村 正寿

橋本 清一

(府立山城郷土資料館へ派遣)

主査

主事

課長

課長補佐

企画係長

主査調査員

資料係長

主任調査員

課長

総括調査員

調査第1係長

次席総括調査員

主任調査員

専門調査員

調査員

調査第2係長

主任調査員

主任調査員

専門調査員

調査員

調査第3係長

主任調査員

主任調査員

専門調査員

主査調査員

調査員

北邑 靖史

鍋田 幸世

森下 衛

水谷 壽克

水谷 壽克(兼)

伊賀 高弘

辻本 和美

田中 彰

長谷川 達

小山 雅人

小池 寛

伊野 近富

岩松 保

岡崎 研一

石崎 善久

松尾 史子

森 正

松井 忠春

増田 孝彦

竹井 治雄

高野 陽子

石井 清司

引原 茂治

田代 弘

石尾 政信

柴 暁彦

村田 和弘

森島 康雄

黒坪 一樹

筒井 崇史

戸原 和人

中川 和哉

竹原 一彦

センターの動向(06.02～06)

1. できごと

2. 3 都出比呂志理事、城谷口古墳群(南丹市)、難波野遺跡(宮津市)現地指導
- 4 長岡京跡右京第851次・下海印寺遺跡第22次・伊賀寺遺跡(長岡京市)現地説明会
- 6 案察使遺跡第7次(亀岡市)発掘調査終了(10.18～)
室橋遺跡(南丹市)発掘調査開始
人権問題特別研修(於：京都市)筒井崇史調査員参加
- 8 石野博信理事、難波野遺跡現地指導
- 10 平成17年度第2回全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主催者会議(於：京都市)小山雅人調査第2課総括調査員、水谷壽克調査第1課課長補佐出席
教育関係法人職員合同研修会(於：ルビノ京都堀川)増田耕造事務局長、安田正人総務課長、森下衛調査第1課長、長谷川達調査第2課長、北邑靖史主査、鍋田幸世主事出席
- 17 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック役員会議(於：滋賀県)増田耕造常務理事・事務局長、安田正人総務課長出席
- 21 人権問題特別研修(於：京都市)黒坪一樹専門調査員参加
職場における喫煙対策セミナー(於：京都市)石井清司調査第2課調査第3係長参加
- 22 長岡京連絡協議会(於：当センター)
長岡京跡右京第862次・下海印寺第24次・西山田遺跡(長岡京市)発掘調査終了(11.7～)
- 24 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックOA委員会(於：京都市埋蔵文化財研究所)小山雅人調査第2課総括調査員、辻本和美資料係長出席
- 25 第103回埋蔵文化財セミナー(於：宇治市生涯学習センター)
- 26 蔵垣内遺跡第4次B地区(亀岡市)現地説明会
池尻遺跡第12・14次・馬路遺跡第6次(亀岡市)現地説明会
- 27 難波野遺跡発掘調査終了(10.6～)
城谷口古墳群発掘調査終了(12.5～)
長岡京跡右京第851次・下海印寺遺跡第22次・伊賀寺遺跡発掘調査終了(5.23～)
薪遺跡第7次(京田辺市)発掘調査終了(9.26～)
池尻遺跡第12次発掘調査終了(10.27～)
3. 2 室橋遺跡発掘調査終了(2.6～)
- 3 池尻遺跡第14次・馬路遺跡第6次発掘調査終了(12.19～)
- 10 蔵垣内遺跡第4次B地区発掘調査

- 終了(11. 1～)
三日市遺跡(亀岡市)発掘調査終了
(1. 18～)
- 7～10 埋蔵文化財発掘技術者特別研修
「動物考古学課程」(於：独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所)
増田孝彦主任調査員参加
- 11 難波野遺跡第4次現地説明会
- 17 職員人権研修(於：当センター)
- 22 長岡京連絡協議会(於：当センター)
- 27 第76回役員会・理事会(於：ルビ
ノ京都堀川)上田正昭理事長、中尾
芳治副理事長、増田耕造常務理事・
事務局長、石野博信、井上満郎、都
出比呂志、中谷雅治、下田元美、小
池久各理事出席
4. 10 城谷口古墳群発掘調査開始
蔵垣内遺跡第4次(亀岡市)発掘調
査開始
- 17 内田山遺跡・内田山古墳群(木津
町)発掘調査開始
- 20 長岡京跡右京第870次・下海印寺
遺跡(長岡京市)発掘調査開始
- 26 長岡京連絡協議会(於：当センター)
- 27 職員人権研修(於：当センター)
5. 8 三日市遺跡(亀岡市)発掘調査開始
- 18 野条遺跡第11次(南丹市)発掘調査
開始
- 24 長岡京連絡協議会(於：当センタ
ー)
- 27～28 日本考古学協会第72回総会(於：
東京都小金井市)筒井崇史調査員出
席
- 31 退職職員辞令交付式(別掲)
6. 1 新規採用職員辞令交付式(別掲)
美濃山遺跡(八幡市)発掘調査開始
- 5 宮津城跡(宮津市)発掘調査開始
- 8～9 全国埋蔵文化財法人連絡協議会総
会(於：山口県)中西和之常務理事・
事務局長、安田正人総務課長出席
- 12 薪遺跡第8次(京田辺市)発掘調査
開始
- 13 監事補助監査
- 16 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近
畿ブロックOA委員会(於：向日市)
小山雅人調査第2課総括調査員、辻
本和美資料係長出席
- 23 監事監査
- 24 第104回埋蔵文化財セミナー(於：
京丹後市峰山総合福祉センター)
- 27 第77回役員会・理事会(於：ルビ
ノ京都堀川)上田正昭理事長、中尾
芳治副理事長、中西和之常務理事・
事務局長、石野博信、都出比呂志、
中谷雅治、増田富士雄、上原真人、
下田元美、宮野文穂、小池久各理事、
池田博監事出席
- 28 長岡京連絡協議会(於：当センタ
ー)
- 2. 普及啓発事業**
2. 25 第103回埋蔵文化財セミナー
(於：宇治市生涯学習センター)『京
都・古代の最新情報－奈良・平安時
代の山城・丹波－』：奈良康正京都
府教育委員会技師「恭仁宮跡の調
査」、浜中邦弘宇治市歴史資料館主
事「藤原撰関家と宇治の成立」、石
崎善久当センター調査員「池尻遺跡

と丹波国府」

6. 24 第104回埋蔵文化財セミナー
(於：京丹後市峰山町総合福祉センター)『丹後地域の弥生墳墓』：石尾政信当センター専門調査員「難波野遺跡の方形貼石墓」、加藤晴彦与謝野町教育委員会主事「日吉ヶ丘遺跡の貼石墓」、岡林峰夫京丹後市教育委員会主事「赤坂今井墳丘墓の調査」、石井清司当センター係長「丹後の弥生墳墓について」

(別掲)人事異動

5. 31 増田耕造常務理事・事務局長退職
奥村清一郎調査第2課課長補佐兼調査第2係長、福島孝行調査員退職(派遣解除)
6. 1 中西和之常務理事・事務局長就任
森正調査第2課調査第2係長、松尾史子調査員採用(派遣)



第103回埋蔵文化財セミナー



難波野遺跡の現地説明会

京都府埋蔵文化財情報総目次(創刊号～第99号)

掲載項目・論文名	著者名 発行年月	掲載 頁		著者名	掲載 頁
創刊号	1981. 9. 30		15. 羽戸山遺跡	小山雅人	55
創刊にあたって	福山敏男	1	16. 内田山古墳	大槻真純	57
昭和56年度発掘調査予定の遺跡	堤圭三郎	2	府下遺跡紹介 4. 恵解山古墳	久保哲正	59
昭和55年度京都府埋蔵文化財の調査	堤圭三郎	5	府下遺跡紹介 5. 扇谷遺跡	小泉信吾	62
豊富谷丘陵遺跡の調査	松井忠春	12	教育委員会だより		65
近畿自動車道舞鶴線関係遺跡発掘調査概要	辻本和美	18	センターの動向	堤圭三郎	69
亀岡市篠窯跡群	水谷壽克	25	受贈図書一覧		71
久世庵寺	近藤義行	31	第4号	1982. 6. 30	
恭仁宮跡の発掘調査について	中谷雅治・大槻真純	36	昭和57年度発掘調査予定の遺跡	堤圭三郎	1
府下遺跡紹介 1. 網野銚子山古墳		42	昭和56年度京都府下埋蔵文化財の調査	堤圭三郎	5
府下遺跡紹介 2. 浜詰遺跡		44	狐谷横穴群発掘調査概要	久保田健士	15
センターの動向	堤圭三郎	46	豊富谷丘陵遺跡発掘調査概要	増田孝彦	21
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		47	加悦町温江百合3号墳出土の埴輪棺	佐藤晃一	27
受贈図書一覧		48	古代エジプト遺跡を訪ねて(1)	小山雅人	33
第2号	1981. 12. 25		—昭和56年度発掘調査略報—		
豊富谷丘陵遺跡(大道寺跡)発掘調査概要	竹原一彦	1	17. 前櫓2号墳	戸原和人	37
篠・西長尾窯跡発掘調査概要	石井清司	8	18. 宮ノ平遺跡	長谷川達	41
千代川遺跡発掘調査概要	村尾政人	15	19. 広隆寺跡	石尾政信	43
長岡京の条坊	中山修一	22	20. 法成寺跡	長谷川達	45
「銅出徐州」の徐州	福山敏男	35	21. 長岡京跡右京第83次	山口博	46
—昭和56年度発掘調査略報—			22. 長岡京跡右京第84次	石尾政信	47
木津遺跡	大槻真純	39	23. 長岡京跡左京第83次	竹井治雄	48
土師南(福知山高校)遺跡	辻本和美	41	24. 長岡宮跡第119次	竹井治雄	49
長岡京跡右京第76・78・79次	山口博	42	25. 亀岡条里制跡	村尾政人	50
資料紹介 有熊遺跡の出土遺物	長谷川達	48	26. 青野遺跡	増田孝彦	51
府下遺跡紹介 3. 吐師七ツ塚古墳		54	27. 後青寺跡	辻本和美	52
センターの動向		57	28. 宮遺跡	辻本和美	54
府下報告書等刊行状況一覧		59	府下遺跡紹介 6. 新戸1号墳	小池寛	56
受贈図書一覧		63	長岡京跡調査だより	山口博	59
第3号	1982. 3. 31		センターの動向	堤圭三郎	60
篠・西長尾5・6号窯発掘調査概要	石井清司	1	受贈図書一覧		63
大内城跡発掘調査概要	伊野近富	8	第5号	1982. 9. 30	
青野・綾中地区遺跡群の調査	中村孝行	18	大内城跡墳墓発掘調査概要	伊野近富	1
丹波国分寺	樋口隆久	25	京都大学教養部構内A P22区の梵鐘製造遺構	五十川伸矢	8
「銅出徐州」の銅(その1)	福山敏男	35	古代エジプト遺跡を訪ねて(2)	小山雅人	14
—昭和56年度発掘調査略報—			「葉椀」「葉皿」考	伊野近富	18
6. 橋爪遺跡	戸原和人	39	福知山市大内周辺の新発見遺跡	岩松保	22
7. 中尾古墳	久保田健士	43	—昭和57年度発掘調査略報—		
8. 下畑遺跡	竹原一彦	45	1. 美濃山狐谷横穴群(第2次)	久保田健士・黒坪一樹	25
9. 稚児野遺跡	伊野近富	46	2. 篠・西長尾奥第1窯跡	引原茂治	27
10. 園部城跡	引原茂治	48	3. 篠・黒岩窯状遺構	引原茂治	28
11. 長岡京跡右京第85次	竹井治雄	50	4. 太田遺跡	田代弘	29
12. 平安宮跡式部省推定地	石尾政信	51	5. 土師南遺跡	竹原一彦	31
13. 平安宮跡左京北辺二坊	竹井治雄	52	6. 長岡京跡(立会調査)	山下正	32
14. 黄金塚2号墳	久保田健士	54	第1回「小さな展覧会」を終わって	長関和男	33
			府下遺跡紹介 7. 神明山古墳	小池寛	35

府下遺跡紹介 8. カザハヒ古墳	小池寛	35	府下遺跡紹介 13. 丹後国分寺跡	久保田健士	38
長岡京跡調査だより	山口博	41	長岡京跡調査だより	山口博	40
センターの動向	堤圭三郎	46	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		44
受贈図書一覧		49	センターの動向	堤圭三郎	45
第6号	1982.12.25		受贈図書一覧		46
相楽山銅鐸出土の発掘調査	奥村清一郎・松本秀人	1	第9号	1983.9.30	
古代エジプト遺跡を訪ねて(3) -昭和57年度発掘調査略報-	小山雅人	6	青野西遺跡の発掘調査について	小山雅人	1
7. 下畑遺跡	竹原一彦	11	丹後木橋城跡試掘調査報告	飛田範夫	11
8. 青野遺跡第8次	小山雅人	14	洞楽寺北遺跡・洞楽寺遺跡発掘調査概要	岩松保	18
9. 丹波亀山城跡	土橋誠	17	千代川遺跡第3次発掘調査概要	岡崎研一	23
10. 深草遺跡	黒坪一樹	18	-昭和58年度発掘調査略報-		
11. 木津川河床遺跡	長谷川達	19	1. 田辺城跡	辻本和美	27
12. 長岡宮跡第123次	竹井治雄	21	2. 土師南遺跡	藤原敏晃	29
13. 長岡宮跡第125次	久保田健士	23	3. 蒲生遺跡	引原茂治	31
14. 長岡京跡右京第107次	山下正	25	府下遺跡紹介 14. 綾中廃寺	土橋誠	33
15. 長岡京跡右京第110次	黒坪一樹	26	府下遺跡紹介 15. 上林城跡	土橋誠	35
資料紹介 古殿遺跡出土の注口土器・案	戸原和人・藤原敏晃	27	長岡京跡調査だより	山口博	37
府下遺跡紹介 9. 千歳塚古墳	小池寛	31	第2回「小さな展覧会」を終えて	長関和男	41
府下遺跡紹介 10. 長者森古墳	小池寛	35	センターの動向	堤圭三郎	43
長岡京跡調査だより	山口博	37	受贈図書一覧		44
教育委員会だより		40	第10号	1983.12.26	
センターの動向	堤圭三郎	45	木津川河床遺跡発掘調査概要	黒坪一樹	1
府下報告書等刊行状況一覧		47	古代エジプト遺跡を訪ねて(6) -昭和58年度発掘調査略報-	小山雅人	7
受贈図書一覧		51	4. 中山城跡	竹原一彦	11
第7号	1983.3.25		5. 千代川遺跡第4次	村尾政人	14
篠窯跡群出土の須恵器について	石井清司	1	6. 千代川遺跡第5次	村尾政人	16
和久寺跡第1次発掘調査	大槻眞純	16	7. 上中遺跡	増田孝彦	18
古代エジプト遺跡を訪ねて(4) -昭和57年度発掘調査略報-	小山雅人	23	8. 長岡宮跡第134次	長谷川達	19
16. 洞楽寺古墳	伊野近富	27	9. 長岡宮跡第140次	増田孝彦	20
17. 後正寺古墓・小屋ヶ谷古墳	岩松保	28	10. 長岡京跡左京第103次	長谷川達	21
18. 長岡京跡右京第105次	山口博	30	11. 長岡京跡右京第127次	山下正	22
19. 伏見城跡	長谷川達	34	12. 長岡京跡右京第141次	山下正	23
府下遺跡紹介 9. 大里環濠集落	小池寛	36	府下遺跡紹介 16. 丹波国分寺跡	土橋誠	24
長岡京跡調査だより	山口博	38	府下遺跡紹介 17. 檜原廃寺	土橋誠	26
センターの動向	堤圭三郎	45	長岡京跡調査だより	山口博	28
受贈図書一覧		47	センターの動向	堤圭三郎	32
第8号	1983.6.30		府下報告書等刊行状況一覧		34
昭和58年度発掘調査予定の遺跡	杉原和雄	1	受贈図書一覧		38
昭和57年度京都府下埋蔵文化財の調査	田中彰	5	第11号	1984.3.31	
福知山市大道寺経塚出土紙本経の保存修理とその問題点	難波田徹	17	北金岐遺跡B地点検出の大溝について	石井清司・森下衛	1
古代エジプト遺跡を訪ねて(5) -昭和57年度発掘調査略報-	小山雅人	21	七尾南古墳群について	田中光浩	11
20. 青野遺跡第7次	小山雅人	26	-昭和58年度発掘調査略報-		
21. 城ノ尾城館跡	小山雅人	27	13. 千代川・桑寺遺跡	森下衛	16
22. 山田館跡	岩松保	28	14. 篠窯跡群(田畑試掘調査)	引原茂治	18
23. 千代川遺跡第3次	岡崎研一	31	15. 長岡京跡右京第148次	黒坪一樹	20
24. 長岡京跡左京第98次	山下正	33	16. 長岡京跡右京第153次	長谷川達	22
府下遺跡紹介 12. 大宮売神社遺跡	土橋誠	35	17. 長岡京跡右京第156次	竹井治雄	23
			18. 長岡京跡(立会調査)	長谷川達	24
			19. 精華町祝園地区遺跡	石尾政信	25
			資料紹介 南金岐遺跡出土の石甌丁	田代弘	28

府下遺跡紹介 18. 高麗寺跡	土橋誠	30	府下遺跡紹介 25. 淀の城跡	引原茂治	36
府下遺跡紹介 19. 山城国分寺跡	土橋誠	32	長岡京跡調査だより	山口博	40
長岡京跡調査だより	山口博	34	センターの動向	堤圭三郎	44
センターの動向	堤圭三郎	38	府下報告書等刊行状況一覧		46
受贈図書一覧		39	受贈図書一覧		50
第12号	1984. 6. 30		第15号	1985. 3. 31	
昭和59年度発掘調査予定の遺跡	杉原和雄	1	長岡京跡左京第118次調査	長谷川達・土橋誠	1
昭和58年度京都府下埋蔵文化財の調査	引原茂治	5	—昭和59年度発掘調査略報—		
千代川・桑寺遺跡の発掘調査	森下衛	13	13. 波江3・4・5号墳	竹原一彦	9
園部窯跡群採集の古瓦	森下衛	21	14. 宮津城跡第4次	竹原一彦	11
—昭和58年度発掘調査略報—			15. 奥谷西遺跡	藤原敏晃	12
20. ケシケ谷遺跡	岩松保	28	16. 土師川改修関係遺跡	三好博喜	14
21. 奥谷西遺跡	藤原敏晃	30	17. 味方遺跡	辻本和美	15
22. 薬王寺古墳	小山雅人	32	18. 篠・芦原3号窯	竹井治雄	17
23. 重要文化財三寶院宝篋印塔基壇	増田孝彦	33	19. 篠・黒岩作業場跡	石井清司	19
24. 隼上り遺跡	小池寛	35	20. 長岡京跡右京第171次	石尾政信	20
府下遺跡紹介 20. 土師新町城跡(仮称)	引原茂治	37	21. 長岡京跡左京第119次	山口博	22
府下遺跡紹介 21. 福知山城跡	土橋誠	39	22. 隼上り2号墳	小池寛	24
長岡京跡調査だより	山口博	42	23. 木津地区所在遺跡	小山雅人・戸原和人	25
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		45	府下遺跡紹介 26. 稲八妻城跡	土橋誠	28
センターの動向	堤圭三郎	46	府下遺跡紹介 27. 浅根山城跡	引原茂治	32
受贈図書一覧		47	長岡京跡調査だより	山口博	36
第13号	1984. 9. 29		センターの動向	堤圭三郎	41
篠尾太田地遺跡	大槻真純	1	受贈図書一覧		43
経塚出土の押出仏	難波田徹	6	第16号	1985. 6. 29	
—昭和59年度発掘調査略報—			昭和60年度発掘調査予定の遺跡	杉原和雄	1
1. 上中遺跡	増田孝彦	11	昭和59年度京都府下埋蔵文化財の調査	土橋誠	5
2. 千代川遺跡第7次	森下衛	12	亀岡市小金岐1・3・7号墳の調査	田代弘	18
3. 千代川遺跡第8次	村尾政人	14	—昭和59年度発掘調査略報—		
4. 篠・西長尾A地区作業場跡	岡崎研一	15	24. 志高遺跡	岩松保	25
5. 長岡京跡右京第165次	山口博	19	25. 多保市城跡	山下正	28
6. 平安京跡右京一条三坊九町(山城高校第6次)	山口博	21	26. 青野遺跡第9次	三好博喜	30
資料紹介 亀岡市与野廃寺採取の古瓦	森下衛	23	27. 奥山田池遺跡	増田孝彦	31
府下遺跡紹介 22. 田野城跡	土橋誠	26	資料紹介 亀岡市穴川遺跡の表採遺物について	村尾政人・田代弘	33
府下遺跡紹介 23. 亀岡市大堰川西岸の中世城跡	引原茂治	29	府下遺跡紹介 28. 正道官衙遺跡	土橋誠	41
長岡京跡調査だより	山口博	33	府下遺跡紹介 29. 坊田古墳群	田代弘	45
センターの動向	堤圭三郎	37	長岡京跡調査だより	山口博	50
受贈図書一覧		38	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		55
第14号	1984. 12. 25		センターの動向	堤圭三郎	56
福知山市石本遺跡の調査	辻本和美	1	受贈図書一覧		57
石本遺跡出土の木製遺物	竹原一彦	13	第17号	1985. 9. 29	
北金岐遺跡C地点の調査	田代弘	17	薬王寺古墳群発掘調査概要	山下正	1
—昭和59年度発掘調査略報—			—昭和60年度発掘調査略報—		
7. 田辺城跡第6次	山下正	23	1. 下畑遺跡	竹原一彦	9
8. 千代川遺跡第9次	森下衛	24	2. 仁田城跡	藤原敏晃	11
9. 長岡京跡左京第115次	三好博喜	26	3. 長岡京跡左京第124次	村尾政人	13
10. 木津川河床遺跡	黒坪一樹	27	4. 長岡京跡右京第193次	石尾政信	17
11. 隼上り3号墳	小池寛	29	5. 長岡京跡右京第194次	黒坪一樹	18
12. 燈籠寺遺跡	戸原和人	30	6. 木津川河床遺跡	岩松保	19
府下遺跡紹介 24. 御土居	土橋誠	32			

資料紹介 木津川河床遺跡出土の円窓付土器	田代弘	21	加悦町吾野山遺跡出土の土器棺	佐藤晃一	7
府下遺跡紹介 30. 長岡宮大極殿跡	土橋誠	24	芝山遺跡の発掘調査	小池寛	13
長岡京跡調査だより	山口博	26	昭和61年度発掘調査予定の遺跡	杉原和雄	22
第4回「小さな展覧会」を終えて	長関和男	32	昭和60年度京都府下埋蔵文化財の調査	山口博	26
センターの動向	堤圭三郎	35	—昭和60年度発掘調査略報—		
受贈図書一覧		37	25. 正垣遺跡	竹原一彦	33
第18号	1985. 12. 28		26. 桃山古墳群	三好博喜	35
鶏冠井遺跡銅鐸鑄型の復原	山中章	1	27. 栗ヶ丘古墳群	伊野近富	37
田辺町郷土塚4号墳の調査	石井清司	6	28. 畑山2号墳	黒坪一樹	39
長岡宮跡第164次調査	石尾政信	13	29. 木津町地区所在遺跡	戸原和人	41
—昭和60年度発掘調査略報—			資料紹介 青野遺跡出土の渦巻文のある土器	田代弘	44
7. 河守遺跡	三好博喜	18	府下遺跡紹介 32. 湯舟坂2号墳	土橋誠	47
8. 土師川改修関係遺跡	長谷川達	21	長岡京跡調査だより	山口博	50
9. 綾中遺跡	伊野近富	23	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		56
10. 味方遺跡	西岸秀文	25	センターの動向	堤圭三郎	57
11. 上中遺跡	増田孝彦	27	受贈図書一覧		59
12. 篠・袋谷1号窯	岡崎研一	30	第21号	1986. 9. 30	
13. 燈籠寺遺跡	戸原和人	33	宮谷横穴状遺構について	安田章	1
資料紹介 亀岡市千代川遺跡出土の壺形土器—弥生時代中期に用いられたタタキ原体の一例—	田代弘	35	青谷石神古墳群について	梶本敏三	7
府下遺跡紹介 31. 長岡宮跡築地跡	土橋誠	38	有明古墳群・横穴群について	増田孝彦	14
長岡京跡調査だより	山口博	41	石原畑窯跡出土のヘラ描き文字・文様の須恵器について	石井清司	20
センターの動向	堤圭三郎	46	—昭和61年度発掘調査略報—		
府下報告書等刊行状況一覧		48	1. 正垣遺跡	竹原一彦	36
受贈図書一覧		52	2. 谷内遺跡	藤原敏晃	38
第19号	1986. 3. 31		3. 長岡宮跡第172次	竹井治雄	40
昭和60年度志高遺跡の発掘調査	山下正・肥後弘幸	1	4. 宮ノ森古墳群	増田孝彦	42
千代川遺跡第10次の発掘調査	森下衛・西岸秀文	9	5. 篠・掛ヶ谷窯跡	岡崎研一	44
亀岡市篠町発見の宝篋印塔基礎	引原茂治	13	資料紹介 石本遺跡出土の渦巻文のある弥生土器について	田代弘	45
—昭和60年度発掘調査略報—			府下遺跡紹介 33. 聖塚古墳・菖蒲塚古墳	土橋誠	48
13. 青野遺跡第9次	森下衛	18	長岡京跡調査だより	山口博	50
14. 小金岐4号墳	引原茂治	20	センターの動向	中谷雅治	55
15. 篠・黒岩作業場跡	竹井治雄	22	受贈図書一覧		57
16. 篠・西長尾奥第2窯跡群1号窯跡	引原茂治	24	第22号	1986. 12. 25	
17. 篠・西前山窯跡群	水谷寿克	26	ゲンギョウの山古墳群の発掘調査	三好博喜	1
18. 長岡京跡右京第206次	長谷川達	28	舞鶴市志高遺跡第7次の発掘調査(A・B地区)	肥後弘幸	8
19. 山科本願寺跡	黒坪一樹	30	—昭和61年度発掘調査略報—		
20. 木津川河床遺跡	岩松保	32	6. 田辺城跡第9次	小山雅人	16
21. 隼上り遺跡	荒川史	34	7. 綾中遺跡	西岸秀文	17
22. 隼上り1号墳	荒川史	35	8. 上中遺跡	岡崎研一	20
23. 木津遺跡第4次	小山雅人	36	9. 蒲生遺跡	西岸秀文	21
資料紹介 南金岐遺跡出土の記号文のある土器	田代弘	38	10. 長岡京跡左京第151次	村尾政人・辻本和美	22
長岡京跡調査だより	山口博	42	11. 長岡京跡右京第240次	石尾政信	24
センターの動向	堤圭三郎	46	資料紹介 狐谷7号横穴墓から出土した「車輪文叩き目」のある須恵器について	田代弘	26
受贈図書一覧		48	資料紹介 谷内遺跡出土の木製穂摘具について	藤原敏晃	31
第20号	1986. 6. 30		府下遺跡紹介 34. 宇治隼上り瓦窯跡	土橋誠	33
京都府中郡峰山町カジヤ古墳出土の筒形銅器及び同府与謝郡加悦町愛宕山古墳出土の鎌身と短剣鞘に付着する織物について	布目順郎	1	長岡京跡調査だより	山口博	36

センターの動向	中谷雅治	43
府下報告書等刊行状況一覧		45
受贈図書一覧		50
第23号	1987. 3. 25	
出土駒から見た将棋の発生	小泉信吾	1
亀岡市天川遺跡出土遺物について	樋口隆久・森下衛	10
宇治市善法古墓の鏡と輸入磁器	八木隆明・杉本宏	16
峰山町古殿遺跡の第3次調査	鍋田勇	20
舞鶴市志高遺跡第7次の発掘調査(A・B地区下層)	三好博喜・肥後弘幸	31
栗ヶ丘古墳群の発掘調査	引原茂治	37
千代川遺跡第12次の発掘調査	森下衛	43
瓦谷遺跡の発掘調査(瓦谷20番地地区)	戸原和人・伊賀高弘	49
－昭和61年度発掘調査略報－		
12. 西小田古墳	三好博喜	55
13. 平山東城館跡	藤原敏晃	57
14. カジヤ谷古墓	細川康晴	59
15. 尊勝寺跡	竹原一彦	60
16. 長岡京跡左京第160次	竹井治雄	16
17. 久保田遺跡	黒坪一樹	64
18. ハヶ坪遺跡第3次	松井忠春	66
19. 木津川河床遺跡	岩松保	68
資料紹介 古殿遺跡出土の梯子状組合せ木製	鍋田勇	71
資料紹介 青野遺跡第6次調査で出土した磨製石剣について	田代弘	74
府下遺跡紹介 35. 元稻荷古墳	土橋誠	79
長岡京跡調査だより	山口博	82
センターの動向	中谷雅治	87
受贈図書一覧		89
第24号	1987. 6. 25	
昭和62年度発掘調査予定の遺跡	山口博	1
昭和61年度京都府下埋蔵文化財の調	田代弘	5
野崎遺跡の削平された古墳群	小山雅人	17
－昭和61年度発掘調査略報－		
20. 平山城館跡	藤原敏晃	27
21. 青野遺跡第11次	水谷寿克	29
22. 長岡京跡右京第251・255次	石尾政信	31
23. 長岡宮跡第185次	竹井治雄	23
24. 平安京跡(左京北辺三坊五町)・内膳町遺跡	伊野近富	34
25. 上人ヶ平遺跡	戸原和人・荒川史	37
紹介『京都府埋蔵文化財』論集	都出比呂志	41
資料紹介 森本遺跡の面付土器	国下多美樹	47
府下遺跡紹介 36. 広隆寺旧境内	土橋誠	50
長岡京跡調査だより	山口博	55
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		59
センターの動向	中谷雅治	60
受贈図書一覧		62

第25号	1987. 9. 25	
高山古墳群・高山遺跡の発掘調査	増田孝彦	1
野崎古墳群の埴輪と土器と土製模造品	小山雅人	13
志高遺跡出土の縄文時代草創期の土器をめぐって	三好博喜	25
盤上遊技史から見た方格規矩紋について	小泉信吾	33
－昭和62年度発掘調査略報－		
1. 鳥取城跡	荒川史	42
2. 長岡京跡右京第266次	竹井治雄	44
3. 谷内遺跡第4次	細川康晴	46
4. 平山城館跡	鍋田勇	48
5. 南稲八妻城跡	黒坪一樹	50
資料紹介 長岡京跡左京第151次調査で出土した玉作り関係の遺物について	田代弘	52
府下遺跡紹介 37. 北野廃寺跡	土橋誠	60
長岡京跡調査だより	山口博	62
センターの動向	中谷雅治	68
受贈図書一覧		70
第26号	1987. 12. 25	
盤上遊技史から見た方格規矩紋について(2)	小泉信吾	1
八幡市木津川河床遺跡検出の大地震に伴う噴砂について	岩松保・寒川旭	9
平安京右京一条三坊九町(第7次)の調査	石井清司	18
木津町八後遺跡・恭仁宮跡(作り道)の発掘調査	岩松保	27
－昭和62年度発掘調査略報－		
6. アバ田古墳群	荒川史	33
7. 遠所古墳群(1号墳)	増田孝彦	35
8. 橋爪遺跡跡第4次	細川康晴	37
9. 上中遺跡第5次	岡崎研一	38
10. 園部城跡	鶴島三寿	40
11. 丹波亀山城跡	森下衛	42
12. 興戸遺跡	伊賀高弘	44
資料紹介 亀岡市時塚遺跡採集の石製品類	田代弘	46
府下遺跡紹介 38. 史跡西寺跡	土橋誠	50
長岡京跡調査だより	山口博	53
センターの動向	中谷雅治	61
府下報告書等刊行状況一覧		63
受贈図書一覧		68
第27号	1988. 3. 25	
平安京の条坊復原	辻純一	1
高山古墳群(7・8・11・12号墳)の発掘調査	増田孝彦	8
栗ヶ丘横穴群について	引原茂治	17
上人ヶ平遺跡の発掘調査－弥生・古墳時代の概観－	小池寛	23
－昭和62年度発掘調査略報－		
13. 新ヶ尾東古墳群(8・9・10号墳)	増田孝彦	33
14. 普甲古墳群・稲荷古墳群	森正	35
15. 泉源寺遺跡	岡崎研一	37
16. シゲツ窯跡・シゲツ墳墓群	肥後弘幸	39
17. 小西町田遺跡	三好博喜	41

18. 小貝遺跡	黒坪一樹・品 田俊治	43	一昭和63年度発掘調査略報一		
19. 蒲生遺跡	森正	46	4. アサバラ遺跡	荒川史	25
20. 長岡京跡右京第281次	石尾政信	47	5. 鳥取城跡	森島康雄	27
21. ハケ坪遺跡第3次	小池寛	48	6. 福垣北古墳群	田代弘	29
資料紹介 熊野郡久美浜町下 山古墳出土の須恵器	荒川史	50	7. 長岡京跡左京第202次	竹井治雄	33
資料紹介 志高遺跡出土の轟 式系統の土器について	三好博喜	52	8. 木津遺跡第6次	岩松保	35
府下遺跡紹介 39. 乙訓寺遺 跡	土橋誠	54	資料紹介 高山古墳群(12号 墳)出土の象嵌をもつ刀装具	増田孝彦	38
長岡京跡調査だより	山口博	57	府下遺跡紹介 42. 観音芝廃 寺	土橋誠	41
センターの動向	中谷雅治	63	長岡京跡調査だより	奥村清一郎	44
受贈図書一覧		65	センターの動向	中谷雅治	48
第28号	1988. 6. 25		府下報告書等刊行状況一覧		50
昭和63年度発掘調査予定の遺 跡	奥村清一郎	1	受贈図書一覧		55
昭和62年度京都府下埋蔵文化 財の調査	辻本和美	5	第31号	1989. 3. 26	
私市円山経塚の調査	鍋田勇	17	遠所古墳群の発掘調査	増田孝彦	1
昭和62年度木津地区所在遺跡 の調査	戸原和人	23	桑飼上遺跡の掘立柱建物群	細川康晴	12
一昭和62年度発掘調査略報一			伽椰前史を彩る文化遺産一韓 国義昌・茶戸里遺跡発掘調査 概報一	李健茂(訳松井 忠春)	19
22. 桑飼上遺跡第1次	細川康晴	34	一昭和63年度発掘調査略報一		
23. 福垣北古墳群	石井清司	36	9. 日光寺遺跡	森島康雄	26
24. 青野遺跡第13次	引原茂治	41	10. 三宅遺跡	竹原一彦	28
25. 千代川遺跡第13次	鶴島三壽	43	11. 青野西遺跡第4次	引原茂治	32
26. 長岡京跡右京第285次	石尾政信	45	12. 北谷城跡・西八田城跡	引原茂治	34
全伽椰解明の貴重な鍵一金 海・七山洞古墳群発掘調査の 成果一	申敬撤(松井忠 春訳)	47	資料紹介 私市円山古墳出土 の胡録金具	鍋田勇・石崎 善久	36
資料紹介 志高遺跡出土の大 歳山式系統の土器について	三好博喜	53	資料紹介 千代川遺跡出土の 木製品	鶴島三壽	40
府下遺跡紹介 40. 東寺旧境 内	土橋誠	56	研究ノート 編年作業におけ る弥生土器様式論の諸問題	濱田延充	43
長岡京跡調査だより	奥村清一郎	60	府下遺跡紹介 43. 井手寺跡	土橋誠	48
財団法人京都府埋蔵文化財調 査研究センター組織および職 員一覧		64	長岡京跡調査だより	奥村清一郎	51
センターの動向	中谷雅治	65	センターの動向	中谷雅治	56
受贈図書一覧		67	受贈図書一覧		57
第29号	1988. 9. 26		第32号	1989. 6. 26	
スクモ塚古墳群の発掘調査	中川和哉	1	平成元年度発掘調査予定の遺 跡	奥村清一郎	1
鍛冶道具副葬の新例一田辺 町・郷土塚4号墳	小池寛	7	昭和63年度京都府内埋蔵文化 財の調査	水谷寿克	7
一昭和63年度発掘調査略報一			京都府木津町上人ヶ平遺跡の 埴輪窯	石井清司	17
1. アバ田東古墳群	荒川史	17	上人ヶ平古墳群の蓋形埴輪一 14号墳出土の蓋形埴輪を中心 に一	伊賀高弘	40
2. 赤田城館跡	黒坪一樹	18	一昭和63年度発掘調査略報一		
3. 長岡京跡右京第306次	岩松保	19	13. 温江遺跡第1次	森正	49
研究ノート 飛鳥・白鳳時代 の土器編年	小山雅人	22	14. 観音寺遺跡	岡崎研一	51
資料紹介 志高遺跡出土の土 器にみる北白川下層Ⅲ式の発 展過程	三好博喜	28	15. 興遺跡	田代弘	52
府下遺跡紹介 41. 普賢寺旧 境内	土橋誠	32	16. 馬場池東方遺跡	黒坪一樹	54
長岡京跡調査だより	奥村清一郎	36	17. 千代川遺跡第14次	鶴島三壽	56
センターの動向	中谷雅治	40	18. 内里八丁遺跡	三好博喜	58
受贈図書一覧		42	19. 木津川河床遺跡	岩松保	59
第30号	1988. 12. 26		20. 小田垣内遺跡	伊野近富	60
平安京跡(左京近衛・西洞院 辻)の発掘調査	伊野近富	1	資料紹介 私市円山古墳出土 の甲冑	鍋田勇	61
休場古墳の発掘調査	森正	9	府下遺跡紹介 43. 銭司遺跡	土橋誠	70
私市円山古墳の発掘調査	鍋田勇	15	長岡京調査だより	奥村清一郎	73
			財団法人京都府埋蔵文化財調 査研究センター組織および職 員一覧		77
			センターの動向	中谷雅治	78
			受贈図書一覧		80

第33号	1989. 9. 26		19. 木津川河床遺跡	竹井治雄	43
八幡市ヒル塚古墳の発掘調査	中井英策	1	府下遺跡紹介 46. 宇治陵墓群	土橋誠	45
スクモ古墳群の発掘調査	竹原一彦	7	長岡京跡調査だより	平良泰久	48
長岡京跡右京第310次の発掘調査	石尾政信・土橋誠	13	センターの動向	中谷雅治	51
集落遺跡に伴う不整円形土坑群	奥村清一郎	23	受贈図書一覧		53
—平成元年度発掘調査略報—			第36号	1990. 6. 25	
1. 川向1号墳	岩松保	30	平成2年度発掘調査予定の遺跡	奥村清一郎	1
2. 西山館跡	引原茂治	32	平成元年度京都府内埋蔵文化財の調査	小山雅人	8
資料紹介 温江遺跡検出の土坑—丹後地域弥生時代後期における貯蔵形態の一例—	森正	33	阿婆田窯跡群の発掘調査	森正	17
資料紹介 福知山市興遺跡出土の簪について—弥生時代簪の一事例—	田代弘	39	桑銅上遺跡の竪穴式住居跡	細川康晴	23
資料紹介 私市円山古墳出土の円筒埴輪	鍋田勇	43	平成元年度 上人ヶ平遺跡の調査	石井清司・伊賀高弘	30
新刊紹介 福知山高校資料室収蔵品目録—考古資料編—	磯野浩光	47	—平成元年度発掘調査略報—		
府下遺跡紹介 44. 天智天皇山科陵	土橋誠	49	20. 里遺跡	田代弘	36
長岡京跡調査だより	平良泰久	53	21. 仏南寺城跡	黒坪一樹	39
センターの動向	中谷雅治	57	22. 天若遺跡	鍋田勇	40
受贈図書一覧		59	23. 八木嶋遺跡第1次	鶴島三壽	41
第34号	1989. 12. 26		24. 千代川遺跡第16次	竹原一彦	43
陝西省における秦漢考古学の現状	黄曉芬	1	25. 中海道遺跡第17次(3NNANK-17)	中川和也	45
綾部市・八田川流域における古墳の変遷—綾部市奥大石古墳群を中心にして—	小池寛	14	26. 内里八丁遺跡	荒川史	46
長沙銅官窯模倣須恵器について	伊野近富	24	27. 興戸遺跡第6次	伊野近富	47
—平成元年度発掘調査略報—			資料紹介 遠所遺跡群出土の銅鏃	増田孝彦	49
3. 日光寺遺跡第2次	森島康雄	33	府下遺跡紹介 47. 御上人林廃寺	土橋誠	50
4. 上野遺跡	岡崎研一	35	長岡京跡調査だより	平良泰久	54
5. 温江遺跡第2次	森正	37	センターの資料活用事業	松井忠春	57
6. 土師南遺跡第4次	引原茂治	38	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		63
7. 観音寺遺跡	黒坪一樹	39	センターの動向	中谷雅治	64
8. 興遺跡	田代弘	42	受贈図書一覧		66
9. 千代川遺跡第15次	鶴島三壽	44	第37号	1990. 9. 29	
10. 長岡宮跡第228次(7AN17C地区)	石尾政信	46	篠窯原型と陶邑窯原型の須恵器について	伊野近富	1
11. 長岡京跡左京第222次(7ANDKD-3地区)	中川和哉	48	伽耶前史を彩る文化遺産(2)—韓国義昌・茶戸里遺跡第3・4次発掘調査略報—	李榮勲(訳松井忠春)	13
府下遺跡紹介 45. 大鳳寺跡	土橋誠	50	—平成2年度発掘調査略報—		
長岡京跡調査だより	平良泰久	53	1. 山形古墓群第2次	森正	19
センターの動向	中谷雅治	56	2. 杉末遺跡	柴暁彦	20
府下報告書等刊行状況一覧		58	3. 里遺跡	田代弘	21
受贈図書一覧		63	4. 京大北部構内遺跡	三好博喜	22
第35号	1990. 3. 26		資料紹介 丹波町蒲生窯跡の須恵器	森正・松室孝樹	23
弥生時代中期におけるいわゆる生駒西麓産土器の製作地	濱田延充	1	資料紹介 綾部市馬場池東方遺跡出土遺物について	田代弘	28
塩谷5号墳出土の人物埴輪	伊野近富	12	府下遺跡紹介 48. 小野毛人墓	土橋誠	32
高山山古墳群の発掘調査	小池寛	20	長岡京跡調査だより	土橋誠	35
—平成元年度発掘調査略報—			センターの動向	安藤信策	39
12. 長良遺跡	森島康雄	26	受贈図書一覧		41
13. 山形古墓	岩松保	28	第38号	1990. 12. 25	
14. 太田・下後古墳群	増田孝彦・石崎善久	30	大田南2号墳の発掘調査	肥後弘幸	1
15. 阿婆田窯跡群	森正	34	京都府木津町瓦谷古墳の調査	伊賀高弘	7
16. 古殿遺跡第4次	岩松保	36	聖域区画小考	小池寛	18
17. 宮津城跡第6次	鍋田勇	38	—平成2年度発掘調査略報—		
18. 長岡京跡左京第226次	三好博喜	40	5. 横浦古墓	森島康雄	31
			6. 大田南・下後古墳群	石崎善久	0

7. 塚本古墳	引原茂治	0	研究ノート 阿婆田窯跡群の 須恵器-重ね焼き技術の検討 を中心に-	森正	14
8. 八木嶋遺跡第2次	鶴島三壽	0			
9. 内里八丁遺跡	竹原一彦	0			
資料紹介 長岡京跡左京第216 次調査の古墳時代遺物の紹介 (1)	中川和哉	42	-平成3年度発掘調査略報-		
府下遺跡紹介 49. 蟹満寺	土橋誠	46	1. 小谷17号墳	野鳥永	20
長岡京調査だより	平良泰久	49	2. 平安宮大極殿院跡	引原茂治	22
京都府埋蔵文化財調査研究セ ンター10周年記念特別展「京 都古代との出会い」について	平良泰久	53	3. 史跡教王護国寺境内	引原茂治	23
センターの動向	安藤信策	57	資料紹介 高山12号墳出土の 鐔	増田孝彦	24
府下報告書等刊行状況一覧		59	資料紹介 埋もれた縄文土器 (1)-正垣遺跡・谷内遺跡-	三好博喜	25
受贈図書一覧		64	府内遺跡紹介 52. 海印寺跡	土橋誠	28
			長岡京跡調査だより	辻本和美	31
			センターの動向	安藤信策	34
			受贈図書一覧		36
第39号	1991. 3. 25		第42号	1991. 12. 25	
遠所遺跡群の発掘調査	増田孝彦	1	樋ノ口遺跡を山田寺跡にあて る考証	足利健亮	1
長岡京跡左京第252次調査	中川和哉	13	樋ノ口遺跡の調査	伊野近富	14
-平成2年度発掘調査略報-			百済の栄華-韓国扶餘・伝天 王寺跡試掘調査略報-	金鍾萬・沢松 井忠春	25
10. こくばら野遺跡	森島康雄	19	-平成3年度発掘調査略報-		
11. 内和田古墳群	森正	21	4. こくばら野遺跡	森島康雄	31
12. 田中西遺跡	野鳥永	23	5. 堤谷古墳群	森正	33
13. 蒲生遺跡第4次	田代弘	24	6. 野中城跡	森正	34
14. 長岡京跡第363次(7ANNKN- 5)	小池寛	25	7. 薬師遺跡	岸岡貴英	36
15. 興戸遺跡	伊野近富	27	8. 下畑遺跡第6次	岸岡貴英	38
16. 燈籠寺遺跡	黒坪一樹	32	9. 川向北1号墳・川向北遺 跡	柴暁彦	40
資料紹介 平安京跡左京一条 三坊二町出土の朝鮮王朝陶磁 器	引原茂治	34	10. 鹿谷遺跡	鶴島三壽	43
府下遺跡紹介 50. 羅城門跡	土橋誠	41	11. 燈籠寺遺跡・内田山A- 3号墳	竹井治雄	45
長岡京調査だより	平良泰久	44	海外だより 中国陝西歴史博 物館の開館	磯野浩光	47
センターの動向	安藤信策	47	府内遺跡紹介 53. 浄妙寺跡	土橋誠	51
受贈図書一覧		49	長岡京跡調査だより	辻本和美	54
			センターの動向	安藤信策	57
			府内報告書等刊行状況一覧		59
			受贈図書一覧		65
第40号	1991. 6. 25		第43号	1992. 3. 25	
平成3年度発掘調査予定の遺 跡	奥村清一郎	1	通り古墳群の発掘調査	石崎善久	1
平成2年度京都府内埋蔵文化 財の調査	辻本和美	5	高田山経塚出土の中国製青白 磁について	小池寛	9
宮津城跡第8次の発掘調査	森島康雄	14	-平成3年度発掘調査略報-		
桑飼上遺跡の発掘調査	岸岡貴英	20	12. 太田古墳群	岡崎研一	13
雲宮遺跡の環濠	戸原和人	26	13. 奈良・奈良岡遺跡・奈良 岡北古墳群	岡崎研一	14
南山城地域の後期古墳の一樣 相-城陽市・長池古墳を中心 として-	小池寛	33	14. 細谷1号墳	小池寛	15
-平成2年度発掘調査略報-			15. 池尻遺跡	田代弘	16
17. 蔵ヶ崎遺跡	森正	44	16. 算用田遺跡	中川和哉	17
18. 左坂古墳群	石崎善久	45	17. 平安京・烏丸町遺跡隣接 地	引原茂治	18
19. 荒堀遺跡	野鳥永	48	18. 興戸遺跡第11次	伊野近富	19
20. 天若遺跡	三好博喜	49	19. 堂ノ上遺跡・恭仁京跡	野鳥永	21
21. 長岡宮跡第250次	竹井治雄	52	資料紹介 宮津城跡出土の ヨーロッパ陶器	引原茂治	22
22. 伏見城跡	柴暁彦	54	センターの資料活用状況	松井忠春	25
府内遺跡紹介 51. 笠置寺旧 境内	土橋誠	58	府内遺跡紹介 54. 平安京西 市跡	土橋誠	33
長岡京跡調査だより	辻本和美	61	長岡京跡調査だより	辻本和美	37
財団法人京都府埋蔵文化財調 査研究センター組織及び職員 一覧		64	センターの動向	安藤信策	40
センターの動向	安藤信策	65	受贈図書一覧		42
受贈図書一覧		67			
第41号	1991. 9. 26				
内里八丁遺跡の水田跡	竹原一彦	1			
古墳における木柱の樹立につ いて	小池寛	7			

第44号	1992. 6. 25		9. 日置遺跡	小池寛	40
平成4年度発掘調査予定の遺跡	水谷壽克	1	10. 上中遺跡第6次	野島永	41
平成3年度京都市内埋蔵文化財の調査	奥村清一郎	6	11. 燈籠寺遺跡第6次	石井清司	42
墓域の中の集団構成(前編)ー近畿地方の周溝墓群の分析を通じてー	岩松保	14	第10回 小さな展覧会「京都発掘'92」を終えて	村田照久	43
ー平成3年度発掘調査略報ー			府内遺跡紹介 57. 宇治宿禰墓	土橋誠	47
20. 遠所遺跡群	岡崎研一	25	長岡京跡調査だより	辻本和美	50
21. 蔵ヶ崎遺跡第2次	森正	30	センターの動向	安藤信策	53
22. 天若遺跡第3次	三好博喜	32	府内報告書等刊行状況一覧		55
23. 八木城跡・堂山窯跡第1次	原田三壽	34	受贈図書一覧		61
24. 長岡京跡右京第381次	鍋田勇	36	第47号	1993. 3. 19	
25. 木津川河床遺跡	小池寛	37	埋経と石造文化	難波田徹	1
26. 口仲谷古墳群	竹原一彦	39	中海道遺跡の再検討(3)	中川和哉	12
27. 大切遺跡	小池寛	40	ー平成4年度発掘調査略報ー		
資料紹介 弥生時代鉄製品の新例	野島永	42	12. 芋谷遺跡	増田孝彦	18
研究ノート 園部町垣内古墳出土の盤龍鏡	原田三壽	45	13. 奈良岡遺跡	田代弘	19
海外研修だより 中国の旧石器時代遺跡を訪ねて	中川和哉	49	14. 下岡古墳	黒坪一樹	21
研修だより 中国陝西省・姜宝蓮氏の研修	磯野浩光	53	15. 鹿谷遺跡	野島永	23
センターの資料活用状況	松井忠春・田中彰	56	16. 平安京右京七条三坊二町	小池寛	25
府内遺跡紹介 55. 氷室跡	土橋誠	64	17. 内里八丁遺跡	筒井崇史	26
長岡京跡調査だより	辻本和美	67	資料紹介 遠所遺跡出土木簡	土橋誠	28
センターの動向	安藤信策	71	研究ノート 3重の列石がめぐる後期古墳2例	小池寛	33
受贈図書一覧		73	研修だより 中国研修に参加してー文化財保護研究者訪中団、訪中報告ー	小池寛	35
「丸尾 晋氏記念文庫」の設立について	戸原和人	81	府内遺跡紹介 58. 史跡平川麿寺跡	土橋誠	40
第45号	1992. 9. 30		長岡京跡調査だより・44		44
墓域の中の集団構成(後編)ー近畿地方の周溝墓群の分析を通じてー	岩松保	1	センターの動向		47
瓦谷古墳出土の靱について	筒井崇史	16	受贈図書一覧		49
中海道遺跡の再検討(1)	中川和哉	24	第48号	1993. 6. 23	
ー平成4年度発掘調査略報ー			平成5年度発掘調査予定の遺跡	水谷壽克	1
1. 細谷古墳群	小池寛	34	平成4年度京都市内埋蔵文化財の調査	伊野近富	7
2. 平安京跡 左京一条二坊十町(堀川会館)	柴暁彦	35	長岡京条坊制地割計画の再検討(上)	鍋田勇	15
3. 大切遺跡	有井広幸	37	ー平成4年度発掘調査略報ー		
4. 今城跡	森正哲次	40	18. 遠所遺跡群	増田孝彦	23
研究ノート 丹後の製鉄遺跡	増田孝彦	41	19. 桐谷古墳群・ニゴレ遺跡	岡崎研一	25
資料紹介 左坂C-18号墳出土の渦巻き状鉄製品	石崎善久	46	20. 神宮谷古墳群	岸岡貴英	27
府内遺跡紹介 56. 六波羅政庁跡	土橋誠	50	21. 八木城跡第2次	引原茂治	30
長岡京跡調査だより	辻本和美	53	22. 植物園北遺跡	竹原一彦	32
センターの動向	安藤信策	56	23. 名神高速道路関係遺跡	戸原和人	33
受贈図書一覧		58	24. 荒坂遺跡	伊賀高弘	36
第46号	1992. 12. 25		府内遺跡紹介 59. 豊楽院正殿跡	土橋誠	38
京都府木津町西山塚古墳の調査	伊賀高弘	1	長岡京跡調査だより・45	辻本和美	41
近畿地方の弥生勾玉	小山雅人	12	財団法人京都市埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		44
中海道遺跡の再検討(2)	中川和哉	27	センターの動向	安藤信策	45
ー平成4年度発掘調査略報ー			受贈図書一覧		47
5. 薬師古墳群	黒坪一樹	34	第49号	1993. 9. 27	
6. 定山遺跡	石崎善久	36	瓦谷遺跡・瓦谷古墳群の発掘調査	有井広幸	1
7. 天若遺跡第4次	三好博喜	37	長岡京条坊制地割計画の再検討(下)	鍋田勇	9
8. 祇園谷遺跡	小池寛	39	ー平成5年度発掘調査略報ー		
			1. 薬師7号墳	岡崎研一	22
			2. 神宮谷4号墳	尾崎昌之	23

3. 若林遺跡	岸岡貴英	24
4. 燈籠寺遺跡	伊賀高弘	25
資料紹介 聚楽第跡出土の軒平瓦	森島康雄	27
府内遺跡紹介 60. 平野山瓦窯跡	土橋誠	34
長岡京調査だより・46	辻本和美	38
センターの動向	安藤信策	41
受贈図書一覧		43
第50号	1993. 9. 27	
平安京跡・旧二条城跡の発掘調査	森島康雄	1
中海道遺跡の再検討(4)	中川和哉	9
—平成5年度発掘調査略報—		
5. 溝谷古墳群	田代弘	15
6. 堀坂神社古墳群	岡崎研一	16
7. 嗎岡南古墳・嗎岡遺跡	河野一隆	18
8. 白山山北古墳	河野一隆	21
9. 今林古墳	柴暁彦	24
10. 沢ノ谷遺跡	柴暁彦	26
11. 平安京左京一条二坊十四町(南トレンチ)	小池寛	28
12. 桜遺跡	野島永	30
資料紹介 銅剣形石剣の新事例	中川和哉	31
府内遺跡紹介 61. 勸修寺旧境内	土橋誠	33
長岡京跡調査だより・47	辻本和美	36
センターの動向	安藤信策	39
府内報告書等刊行状況一覧		41
受贈図書一覧		47
第51号	1994. 3. 25	
瓦谷遺跡の埴輪棺	石井清司・有井広幸	1
古墳出現前後の注口土器について	藤原敏晃	20
由良川・中・下流域の第Ⅲ様式土器について・前編	田代弘	34
—平成5年度発掘調査略報—		
13. 女布北遺跡	筒井崇史	43
14. ジンド古墳	野島永	44
15. 山根古墳	三好博喜	45
16. 八木城跡第3次・堂山2号窯跡	引原茂治	46
17. 北尻遺跡	伊賀高弘	48
18. 山城国府跡第30次	石尾政信	49
研修だより 中国研修に参加して—文化財保護研究者訪中団報告—	安藤信策・辻本和美・増田孝彦・竹原一彦	50
府内遺跡紹介 61. 宝菩提院廃寺	土橋誠	54
長岡京調査だより・48	辻本和美	57
センターの動向	安藤信策	60
受贈図書一覧		62
第52号	1994. 6. 27	
平成6年度発掘調査事業予定	水谷壽克	1
平成5年度埋蔵文化財の発掘調査	平良泰久	5
長岡京跡東京極大路の発掘調査—長岡京跡左京第286・313・317次調査	鍋田勇	11
竹製経筒の復元について—漆を塗布した竹製経筒の新例—	小池寛	21

—平成5年度発掘調査略報—		
19. 黒部製鉄遺跡	河野一隆	27
20. ニゴレ遺跡	岡崎研一	29
21. 上野古墳群	増田孝彦	32
22. 七百石遺跡	尾崎昌之	34
23. 池尻遺跡第2次	柴暁彦	36
24. 伏見城跡	岩松保	38
25. 内里八丁遺跡	竹原一彦	40
研究ノート 正L字文を持つ規矩鏡について	原田三壽	41
資料紹介 大山崎町下植野南遺跡出土の遺物	中川和哉	47
府内遺跡紹介 62. 法住寺殿跡	土橋誠	53
長岡京跡調査だより・49	辻本和美	56
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		60
センターの動向	安藤信策	61
受贈図書一覧		63
第53号	1994. 9. 27	
信長、秀吉、家康の城と城下町・前編—歴史地理学と考古学・歴史学—	足利健亮	1
由良川中・下流域の第Ⅲ様式土器について・後編—凹線文出現以前の資料を中心に—	田代弘	12
—平成6年度発掘調査略報—		
1. 長岡京左京第332次	中川和哉	25
2. 上津屋遺跡	岸岡貴英	27
3. 燈籠寺遺跡・燈籠寺廃寺跡	伊賀高弘	29
4. 梅谷瓦窯跡・中ノ島遺跡	有井広幸	31
研究ノート 軒瓦から見た恭仁の皇后宮—恭仁宮北東周辺部の問題—	小山雅人	35
府内遺跡紹介 63. 光明山寺跡	土橋誠	41
長岡京跡調査だより・50	小山雅人	44
センターの動向	安藤信策	47
受贈図書一覧		49
第54号	1994. 12. 26	
日本出土の青龍三年銘方格規矩四神鏡について—呉の工匠の三角縁神獸鏡日本製作説を兼ねて—	王仲殊	1
信長、秀吉、家康の城と城下町・後編—歴史地理学と考古学・歴史学—	足利健亮	15
綾部市山尾古墳の発掘調査—平成6年度発掘調査略報—	野々口陽子	28
5. 竹野遺跡	柴暁彦	36
6. 定山遺跡	黒坪一樹	39
7. 京都縦貫道関係遺跡	大岩洋一	40
8. 塔遺跡	小池寛	42
9. 若林遺跡第3次	岸岡貴英	44
10. 長岡京跡右京第474次	野島永	46
11. 市坂3号墳	橋本稔	49
研修だより 中国の旧石器時代遺跡を訪ねて(2)	中川和哉	51
府内遺跡紹介 64. 平安宮造酒司跡	土橋誠	55
長岡京跡調査だより・51	小山雅人	58
センターの動向	安藤信策	61

府内報告書等刊行状況一覧		63
受贈図書一覧		68
第55号	1995. 3. 27	
考古学と中国古代史研究・前編—ある方法論の探求—	杜正勝	1
金谷1号墓の発掘調査	石崎善久	13
市坂瓦窯の発掘調査	森島康雄	19
—平成6年度発掘調査略報—		
12. 北谷古墳群	田代弘	25
13. 奈具墳墓群・奈具古墳群	河野一隆	26
14. 裾谷横穴	筒井崇史	31
15. 宇治市街遺跡	森正哲次	32
16. 金ヶ辻遺跡	森島康雄	33
17. 甕原離宮推定地	有井広幸	34
18. 梅谷瓦窯跡	有井広幸	36
19. 弓田遺跡	橋本稔	40
20. 長岡京跡左京第329・330・331次	戸原和人	42
研究ノート 上人ヶ平遺跡の馬形埴輪—馬形埴輪の一例—	石井清次・河野一隆	45
資料紹介 京都府の古墳時代鉄鍬	野島永	54
研修日より 平成6年度全埋協近畿ブロック海外研修報告—中国 北京・西安を中心に—	引原茂治・戸原和人・岡崎研一・杉江昌乃	63
府内遺跡紹介 65. 栗栖野瓦窯跡	土橋誠	70
長岡京跡調査日より・52	小山雅人	74
センターの動向	安藤信策	77
受贈図書一覧		78
第56号	1995. 6. 26	
考古学と中国古代史研究・後編—ある方法論の探求—	杜正勝	1
平成7年度発掘調査事業予定	水谷壽克	11
平成6年度京都府埋蔵文化財の調査	辻本和美	14
左坂古墳群第7次の発掘調査	石崎善久	21
瓦谷遺跡の埴輪棺再考	石井清司	26
—平成6年度発掘調査略報—		
21. 滝谷遺跡・石ヶ原古墳群	筒井崇史	37
22. ニゴレ遺跡	岡崎研一	38
23. 引地城跡	黒坪一樹	40
24. 今林遺跡・今林2号墳	野々口陽子	41
25. 大俣城跡	大岩洋一	43
26. 青路古墳・銭塚古墓	野島永	44
27. 丹波亀山城跡第4次	尾崎昌之	45
28. 内里八丁遺跡	竹原一彦	46
29. 北稲・柿添遺跡	伊賀高弘	48
30. 釜ヶ谷遺跡	石井清司	50
31. 長岡京跡右京第466次	戸原和人	51
資料紹介 東土川遺跡出土の縄文時代遺物について	小島孝修	55
府内遺跡紹介 66. 白河北殿跡	土橋誠	68
長岡京跡調査日より・53	小山雅人	71
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		74
センターの動向	安藤信策	75
受贈図書一覧		77

第57号	1995. 9. 26	
中世土器の編年(上)	伊野近富	1
大宮町左坂横穴群の検討	筒井崇史	13
—平成7年度発掘調査略報—		
1. 黒部遺跡	岡崎研一	20
2. 奈具岡南古墳群	河野一隆	22
3. 中原城跡	村田和弘	24
4. 京都縦貫自動車道関係遺跡(宮津工区)	尾崎昌之	25
5. 植物園北遺跡第16次	石尾政信	26
6. 長岡京跡左京第353次(7ANFIR-2・FDN)	小池寛・竹下士郎	28
資料紹介 平安京跡出土の中国製男子像について	小池寛	30
府内遺跡紹介 67. 嵯峨院跡	土橋誠	34
長岡京跡調査日より・54	古瀬誠三	37
センターの動向	安藤信策	40
受贈図書一覧		42
第58号	1995. 12. 26	
京都大学構内遺跡における弥生前期水田の調査	伊藤淳史	1
大俣城跡の発掘調査	大岩洋	9
長岡京跡左京南一条三坊十三町の宅地	戸原和人	17
—平成7年度発掘調査略報—		
7. 南谷古墳群	筒井崇史	29
8. 竹野遺跡	村田和弘	30
9. 鳥津遠所古墳群	河野一隆	32
10. 園部城跡第4次	黒坪一樹	34
11. 宮川遺跡	野々口陽子	36
12. 釜ヶ谷遺跡第3次	有井広幸	37
資料紹介 新出の朝鮮王朝磁器について—平安京跡左京一条二坊十四町例—	小池寛	39
府内遺跡紹介 68. 淳和院跡	土橋誠	43
長岡京跡調査日より・55	古瀬誠三	47
センターの動向	安藤信策	51
府内報告書等刊行状況一覧		53
受贈図書一覧		58
第59号	1996. 3. 26	
中世土器の編年(中)	伊野近富	1
長岡京跡左京第366次調査の問題点—第4トレンチを中心に—	小池寛	11
弓田遺跡の発掘調査	橋本稔	17
理論考古学の節度	河野一隆	23
—平成7年度発掘調査略報—		
13. 奈具谷遺跡	柴暁彦	29
14. 枯木谷遺跡	竹原一彦	31
15. 桑原口遺跡	尾崎昌之	33
16. 嶋遺跡	田代弘	35
17. 池下城支城跡・堀古墳	黒坪一樹	37
18. 上中太田遺跡	竹下士郎	39
19. 千代川遺跡第20次	野々口陽子	41
20. 中海道遺跡第34次	奈良康正	42
21. 長岡京跡右京第498次	引原茂治	43
22. 井尻遺跡	八木厚之	44
23. 興戸宮ノ前遺跡	伊賀高弘	45
24. 柿添遺跡第2次	有井広幸	47
府内遺跡紹介 69. 冷然院跡	土橋誠	49
長岡京跡調査日より・56	古瀬誠三	52

センターの動向	安藤信策	56
受贈図書一覧		58
第60号	1996. 6. 26	
奈良岡北古墳群の発掘調査	増田孝彦	1
平成8年度発掘調査事業予定	水谷壽克	8
平成7年度京都府埋蔵文化財の調査	奥村清一郎	11
丹後蛭子山古墳の測量図を読む	奥村清一郎	16
中世土器の編年(下)	伊野近富	26
—平成7年度発掘調査略報—		
25. 石ヶ原古墳群	村田和弘	36
26. 引地城跡・南有路城跡	筒井崇史	38
27. 長岡京跡右京第511次	石尾政信	39
28. 内里八丁遺跡	森下衛	41
29. 棕ノ木遺跡	伊賀高弘	43
資料紹介 近世京都・勤兵衛町出土の「乾山」	小池寛	45
府内遺跡紹介 70. ニゴレ古墳	河野一隆	50
府内遺跡紹介 71. 二子山古墳	土橋誠	53
長岡京跡調査だより・57	古瀬誠三	55
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		58
センターの動向	安藤信策	59
受贈図書一覧		61
第61号	1996. 9. 27	
墓に土器を供えるという行為について(上)	深澤芳樹	1
長岡京条坊計画試論—均等宅地型モデルの場合—	岩松保	17
共同研究 古代における生産と流通—篠塚跡群を中心として—	石井清司・水谷壽克	38
—平成8年度発掘調査略報—		
1. 黒部遺跡(長芝原地区)	岡崎研一	54
2. 奈良岡遺跡・奈良岡北古墳群・奈良岡南古墳群	河野一隆・橋本稔	55
3. 浦入西古墳群	奈良康正	57
4. 長岡京跡右京第526次(7ANKJC-2)	竹下士郎	58
府内遺跡紹介 72. 久津川車塚古墳	河野一隆	59
府内遺跡紹介 73. 宇治二子塚古墳	土橋誠	62
長岡京跡調査だより・58	津村正樹	65
センターの動向	安藤信策	68
受贈図書一覧		70
第62号	1996. 12. 26	
墓に土器を供えるという行為について(下)	深澤芳樹	1
シミズ谷城跡の発掘調査	柴暁彦	8
篠・マル山1号窯跡の発掘調査	野々口陽子	14
田辺城跡の発掘調査	石尾政信	20
木津町瀬後谷瓦窯の操業に関する一考察—軒瓦の分析から—	奥村茂輝	28
共同研究 改築された横穴式石室—京都府中丹地域域を中心に—	松井忠春・小池寛	40
—平成8年度発掘調査略報—		
5. 松ヶ崎遺跡	村田和弘	52

6. 桑原口遺跡第3次	田代弘	54
7. 今福北城跡	田代弘	56
8. 盛林寺裏山古墳	小池寛	57
9. 興戸古墳	石尾政信	58
随想 十九年目の西安再見の記	川上貢	59
府内遺跡紹介 74. 奉安塚古墳	河野一隆	66
府内遺跡紹介 75. 梶塚古墳	土橋誠	69
長岡京跡調査だより・59	津村正樹	71
センターの動向	安藤信策	74
府内報告書等刊行状況一覧		76
受贈図書一覧		81
第63号	1997. 3. 26	
丹後半島最古の製塩土器の発見—平成8年度平遺跡の発掘調査から—	河野一隆	1
内里八丁遺跡第9次の発掘調査	森下衛	7
長岡京跡左京第384次(7ANVKN-9)の発掘調査	戸原和人	13
五領池東瓦窯跡の発掘調査	有井広幸	19
—平成8年度発掘調査略報—		
10. 天王山古墳群	黒坪一樹	26
11. 奈良岡南古墳群	竹原一彦	27
12. 浦入遺跡N地区	筒井崇史	29
13. 浦入西2号墳	増田孝彦	31
14. 長岡京跡左京第389次・中福知遺跡	小池寛	33
15. 長岡京跡右京第541次・脇山遺跡	野々口陽子	35
16. 柿添遺跡第3次	引原茂治	37
府内遺跡紹介 76. 物集女車塚古墳	河野一隆	38
府内遺跡紹介 77. 長法寺七ツ塚古墳群	土橋誠	41
長岡京跡調査だより・60	津村正樹	43
センターの動向	安藤信策	46
受贈図書一覧		48
第64号	1997. 6. 26	
徐州で出土した前漢前期の人物画像鏡について	李銀徳・孟強(訳黄暁芬)	1
平成9年度の発掘調査事業予定	水谷壽克	9
平成8年度京都府埋蔵文化財の調査	伊野近富	12
平安京跡の発掘調査	竹下士郎	19
—平成8年度発掘調査略報—		
17. 中海道遺跡第42次(3NNKAN-42)	田代弘	23
18. 長岡京跡左京第385次(7ANVKN-9・10)	野島永	25
19. 長岡京跡右京第547次(7ANGTE-3・GKN-2)	柴暁彦	27
20. 菟道遺跡・西隼上り遺跡	石尾政信	29
21. 西ノ口遺跡・宮ノ背遺跡	奈良康正	31
誌上遺物展示 1. 京都府丹後町高山12号墳出土双龍環頭大刀	河野一隆	33
府内遺跡紹介 78. 五塚原古墳	土橋誠	35
長岡京跡調査だより・61	米本光徳	38
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織及び職員一覧		41

センターの動向	安藤信策	42
受贈図書一覧		44
第65号	1997.9.26	
須恵器・直口甕の基礎的検討	小池寛	1
竪穴式住居内に煙道を有する	筒井崇史・榎	
カマドについてー浦入遺跡に	本順子	10
おける調査事例からー		
内里八丁遺跡第9次の発掘調	森下衛	18
査		
ー平成9年度発掘調査略報ー		
1. 芋野城跡	黒坪一樹	25
2. 相之目古墳	石尾政信	27
3. 中海道遺跡第46次	竹下士郎	28
4. 長岡京跡左京第400次	石井清司	30
(7ANEMR-4地区)		
研修だより 平成7年度全埋	伊野近富・竹	
協近畿ブロック海外研修報告	井治雄・石尾	32
	政信・黒坪一	
	樹	
誌上遺物展示 2. 桑飼下遺	河野一隆	38
跡の打製石斧		
府内遺跡紹介 79. 天塚古墳	土橋誠	41
長岡京跡調査だより・62	米本光徳	43
センターの動向	安藤信策	46
受贈図書一覧		48
第66号	1997.12.26	
須恵器・直口甕の系譜につい	小池寛	1
て		
愛宕神社古墳群の発掘調査	竹井治雄	7
長岡京跡左京第399次の発掘調	八木厚之	11
査(7ANVKN-11、7ANVST-7)		
山城地域の高地性集落ー一般		
地方道富野荘八幡線関係遺跡	河野一隆	15
(宮ノ背・西ノ口・備前遺跡)		
の発掘調査からー		
対馬の遺跡をたずねて	小池寛	21
ー平成9年度発掘調査略報ー		
5. 天王山古墳群B支群1・	岡崎研一	26
2号墳		
6. 谷垣1・2・3号墳	岡崎研一	29
7. スガ町古墳群	村田和弘	30
8. 松ヶ崎遺跡第5次	戸原和人	32
9. 苗代古墳群	松尾史子	36
10. 竹中遺跡	竹下士郎	38
11. 余部遺跡第3次	引原茂治	39
12. 柏平遺跡	有井広幸	40
誌上遺物展示 3. 京都府京	河野一隆	41
田辺市堀切7号墳の人物埴輪		
府内遺跡紹介 80. 寺戸大塚	土橋誠	44
古墳		
長岡京跡調査だより・63	米本光徳	47
センターの動向	安藤信策	50
府内報告書等刊行状況一覧		52
受贈図書一覧		57
第67号	1998.3.26	
弥生時代石器研究の実践ー東	中川和哉	1
土川遺跡出土例からー		
浦入遺跡群A地点の発掘調査	筒井崇史	7
長岡京造営に伴う河川改修事	小池寛	14
業		
内里八丁遺跡第10次の発掘調	古瀬誠三・森	21
査	下衛・柴暁彦	
椋ノ木遺跡第3次の発掘調査	森島康雄	28

ー平成9年度発掘調査略報ー		
13. 生野内城跡	竹原一彦	34
14. 横枕遺跡	松尾史子	35
15. 井町古墳群	引原茂治	37
16. 茶カス古墳群	竹井治雄	39
17. 鳥谷古墳群	竹下士郎	41
資料紹介 長岡京出土の古櫃	野島永	43
について		
誌上遺物展示 4. 京都府向	河野一隆	49
日市山開古墳の子持勾玉		
府内遺跡紹介 81. 飯岡車塚	土橋誠	52
古墳		
長岡京跡調査だより・64	米本光徳	54
センターの動向	安藤信策	57
受贈図書一覧		59
第68号	1998.6.26	
粘土櫛内への鉄製農工漁具の	荒川史・魚津	
副葬ー庵寺山古墳の調査成果	知克・内田真	1
からー	雄	
中世菌部城と荒木山城守の居	高屋茂男	12
城について		
浅後谷南遺跡出土の導水施設	黒坪一樹	17
について		
南山城における渡来人集落の	小池寛	21
一様相ー精華町森垣外遺跡の		
概観と問題点の指摘ー		
長岡京の大規模宅地ー名神桂	野島永	27
川パーキング・エリアの調査		
からー		
桂川右岸における石剣の出土	中川和哉	33
例ー東土川遺跡を中心にー		
平成9年度京都府埋蔵文化財	平良泰久	39
の調査		
ー平成9年度発掘調査略報ー		
18. 別荘古墳群・別荘遺跡	増田孝彦	45
19. 浅後谷南城跡・浅後谷南	竹原一彦	47
墳墓		
20. 吉沢城跡	石尾政信	50
21. 菩提城跡(菩提東古墳)	村田和弘	51
22. 太田遺跡第5次	増田孝彦	53
23. 余部遺跡第2次	野々口陽子	55
24. 長岡京跡右京第584次	八木厚之	57
(7ANGND-1地区)		
25. 長岡京跡右京第585次	岩松保	58
(7ANTGT-6)・第589次(7ANSKT-		
3)		
26. 城山遺跡	伊賀高弘	59
誌上遺物展示 5. 京都市内	伊野近富	61
出土の近世陶器		
長岡京跡調査だより・65	米本光徳	65
財団法人京都府埋蔵文化財調		
査研究センター組織及び職員		68
一覧		
センターの動向	安藤信策	69
受贈図書一覧		71
第69号	1998.9.26	
内里八丁遺跡第10次の発掘調	森下衛	1
査		
12世紀の土器製塩炉跡	田代弘	7
長岡京の鑄造用溶解炉をめ	野島永	17
ぐってー銹鉄鑄物生産の様相		
ー		
弥生時代の東土川遺跡	中川和哉	25
ー平成10年度発掘調査略報ー		
1. 橋爪遺跡第5次	村田和弘	31

2. シミズ谷古墳群	竹井治雄	33
3. 桑原口遺跡	増田孝彦	34
4. 今福古墳群	増田孝彦	35
5. 川向古墳群第2次	福島孝行	36
6. 成勝寺跡・岡崎遺跡	有井広幸	37
7. 畑ノ前遺跡	岩松保	38
府内遺跡紹介 82. 福西2号墳	河野一隆	39
長岡京跡調査だより・66	米本光徳	42
センターの動向	安藤信策	45
受贈図書一覧		47
第70号	1998.12.26	
巻頭カラー図版 与謝郡岩滝町大風呂南墳墓群出土のガラス釦	白数真也	
海上で用いられた丸木舟一浦入遺跡群R地点出土の縄文時代前期の丸木舟一	石井清司・田代弘	1
長岡京跡右京第589次・下植野南遺跡の発掘調査	中村周平	7
一平成10年度発掘調査略報一		
8. 南谷古墳群C支群	石尾政信	11
9. 永留城跡(A地点)	石尾政信	13
10. 浅後谷南遺跡(B地区)	福島孝行	14
11. 墓ノ谷古墳群	竹井治雄	15
12. 通り谷城跡	増田孝彦	16
13. 今林遺跡第2次	戸原和人	18
14. 菰池遺跡	伊賀高弘	19
15. 大島遺跡	岩松保	21
資料紹介 恭仁宮跡北面大垣出土「東」銘文字瓦について	永澤拓志	23
研究ノート 愛宕神社1号墳の中国鏡について	竹井治雄	27
長岡京跡調査だより・67		31
センターの動向	安藤信策	33
府内報告書等刊行状況一覧		35
第71号	1999.3.26	
出現期の製塩土器支脚一久美浜町こくばら野遺跡の製塩土器と出土遺構をめぐって一	田代弘	1
浅後谷南遺跡の発掘調査	黒坪一樹・石崎善久	15
下植野南遺跡(下層)の調査	竹下士郎	21
一平成10年度発掘調査略報一		
16. 奈具岡遺跡第9次	筒井崇史	27
17. 左坂古墳群D・E支群	引原茂治	28
18. 太田遺跡第8次調査	岡崎研一	30
19. 余部遺跡第5次調査	野々口陽子	31
20. 中海道遺跡第49次	藤井整	33
21. 長岡京跡右京第615次(7ANHJ-6)	竹井治雄	34
22. 長岡京跡右京第620次(7ANKNA-2)	戸原和人	36
23. 下植野南遺跡範囲確認調査	戸原和人	37
24. 木津川河床遺跡	森下衛	39
25. 興戸宮ノ前遺跡第3次	藤井整	40
資料紹介 梅谷瓦窯跡出土の特異な道具瓦について	奥村茂輝	41
府内遺跡紹介 83. 天皇ノ杜古墳	河野一隆	45
長岡京跡調査だより・68	米本光徳	47
センターの動向	小山雅人	49
受贈図書一覧		51

第72号	1999.6.26	
木津川河床遺跡の地震痕跡	森下衛・上田真一郎	1
市田斎当坊遺跡の発掘調査	竹原一彦	9
八木町池上遺跡の発掘調査	中川和哉	15
平成10年度京都府内遺跡の発掘調査	辻本和美	19
平成10年度発掘調査略報		
26. 平安京跡二条大路	福島孝行	27
27. 長岡宮跡第372次(7ANBND-2)	田代弘	29
28. 算用田遺跡	野島永	30
29. 芝山遺跡	増田孝彦	31
30. 木津城山遺跡第2次	伊賀高弘	32
府内遺跡紹介 84. 保津山古墳一失われた遺跡を復原する一	河野一隆	34
長岡京跡調査だより・69	米本光徳	36
堤圭三郎理事を偲ぶ	杉原和雄・安藤信策	38
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		40
センターの動向	小山雅人	41
受贈図書一覧		43
第73号	1999.9.26	
平安京跡右京一条三坊九・十町の調査	村田和弘	1
八幡市内里八丁遺跡の道路状遺構	森下衛	9
奈良・平安時代における乙訓地域の交通路一西国街道の成立とその変遷一	岩松保	17
平成11年度発掘調査略報		
31. 墓ノ谷古墳群第2次	石崎善久	25
32. 長岡京跡右京第635次(7ANKNZ-10)	松尾史子	26
資料紹介 浅後谷南遺跡出土の滑石製刀子	石崎善久	28
研修だより 石塞山湊国墓地のクラスター分析	河野一隆	30
府内遺跡紹介 85. 下司古墳群	河野一隆	34
長岡京跡調査だより・70		36
センターの動向	小山雅人	38
受贈図書一覧		40
第74号	1999.12.26	
下植野南遺跡の発掘調査	藤井整	1
律令期の土器製塩遺跡における鍛冶遺構	田代弘・水野聡哉	5
近畿地方北部における古墳成立期の墳墓(1)	野島永・野々口陽子	19
平成11年度発掘調査略報		
33. 今井城跡・赤坂今井墳丘墓	黒坪一樹	33
34. 吉沢城跡	石尾政信	35
35. 五十河遺跡	引原茂治	36
36. 福知山城跡	福島孝行	37
37. 東山遺跡	中川和哉	38
38. 算用田遺跡	伊賀高弘	39
39. 稲葉遺跡第5次	森島康雄	40
40. 三山木遺跡	岡崎研一	41
府内遺跡紹介 86. 広沢古墳	河野一隆	43
長岡京跡調査だより・71		45

センターの動向	小山雅人	47	4. 善願寺遺跡第2次	石崎善久	23
受贈図書一覧		49	5. 稲葉遺跡第6次	森島康雄	24
第75号	2000.3.26		6. 大島遺跡第5次	伊賀高弘	25
太田遺跡第10次発掘調査概要	増田孝彦	1	府内遺跡紹介 88. 私市円山古墳-遺跡公園の可能性-	河野一隆	27
丹波地域の遺構検出面と黒ボク層	中川和哉	5	長岡京跡調査だより・74	竹井治雄	29
安徽省の遺跡をたずねて-平成11年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国研修報告-空間情報科学と考古学-その協調と展望	筒井崇史	9	センターの動向		31
平成11年度発掘調査略報	河野一隆	19	受贈図書一覧		33
41. 南稲葉遺跡	黒坪一樹	29	第78号	2000.12.26	
42. 杉北遺跡	中川和哉	31	下植野南遺跡方形周溝墓出土の磨製石剣	野島永・魚津知克	1
43. 市田齊当坊遺跡第2次C2地区	岩松保	32	今林古墳群の発掘調査	福島孝行	7
44. 佐山尼垣外遺跡	中村周平	34	弥生墳墓における鉈の副葬作法について(1)	福島孝行	11
45. 佐山遺跡	竹原一彦	36	京都府内出土の石鍋について	中島史子	17
46. 春日神社遺跡	松尾史子	37	戦争の誕生-一人間の攻撃性と戦争の社会的起源をめぐる比較考古学-	河野一隆	23
47. 木津城山遺跡	戸原和人	38	平成12年度発掘調査略報		
48. 内田山遺跡・内田山B1号墳	筒井崇史	40	7. シリガイ・東禪寺古墳群、エノク経塚群	岩松保	43
49. 新田遺跡第5次	竹井治雄	42	8. 植物園北遺跡	田代弘	45
50. 新田遺跡第6次	岡崎研一	43	9. 三山木遺跡	岡崎研一	46
研究ノート 発掘調査によって検出された四脚門の検討-平安京跡右京一条三坊九町検出の四脚門について-	村田和弘	44	府内遺跡紹介 89. 井ノ内稲荷塚古墳-継体朝の「弟国宮」と下植野南遺跡-	河野一隆	48
府内遺跡紹介 87. 大枝山古墳群		50	長岡京跡調査だより・75	竹井治雄	50
長岡京跡調査だより・72	河野一隆	52	センターの動向		52
センターの動向		54	受贈図書一覧		54
受贈図書一覧		56	第79号	2001.3.26	
第76号	2000.6.26		赤坂今井墳丘墓第3次の発掘調査	石崎善久・岡林峰夫	1
赤坂今井墳丘墓にみる階層制について	福島孝行	1	方形周溝墓の被葬者-下植野南遺跡の調査から-	藤井整	9
大宮町左坂古墳群の経塚状遺構	石崎善久	11	丹後地域における飛鳥時代から奈良時代前半の土器様相について-特に横穴墓出土資料からみた土器編年-	筒井崇史	15
近畿地方北部における古墳成立期の墳墓(2)	野島永・野々口陽子	19	平成12年度発掘調査略報		
平成11年度京都府埋蔵文化財の調査	奥村清一郎	35	10. 桑原口遺跡第5次	引原茂治	27
平成11年度発掘調査略報			11. 東山遺跡第2次	中川和哉	28
51. 狭間墳墓群・平山古墳・カチ山北古墳群	福島孝行	41	12. 池上遺跡第7次	村田和弘	30
52. 平等院旧境内遺跡・宇治市街遺跡	田代弘	43	13. 太田遺跡第13次	小池寛	32
53. 市田齊当坊遺跡D地区	岩松保	44	14. 百々遺跡	松井忠春	34
54. 大島遺跡第4次	村田和弘	46	15. 佐山遺跡第2次(A-2地区)	野々口陽子	36
長岡京跡調査だより・73	河野一隆	47	16. 木津川河床遺跡第12次	黒坪一樹	38
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		49	17. 木津川河床遺跡第13次	石尾政信	39
センターの動向		50	18. 上津屋遺跡第4次	福島孝行	40
受贈図書一覧		52	資料紹介 舞鶴市女布遺跡採集の有舌尖頭器	吉岡博之・黒坪一樹	41
第77号	2000.9.26		設立20周年記念事業をおえて府内遺跡紹介 90. 大岩山たたら跡(御陵大岩町遺跡)	竹井治雄	45
佐山遺跡の発掘調査	竹原一彦・野々口陽子	1	長岡京跡調査だより・76	河野一隆	49
織部雑記-京都府庁出土の織部向付を中心に-	小山雅人	7	センターの動向	竹井治雄	51
平成12年度発掘調査略報			受贈図書一覧		53
1. 沖田遺跡	石尾政信	17	第80号	2001.6.26	
2. 梯木林遺跡	中島史子	19	女谷横穴群(B支群)第2次調査	岩松保	1
3. 南稲葉遺跡	黒坪一樹	21	平成12年度京都府埋蔵文化財の調査	水谷壽克	9

江蘇省・安徽省の遺跡を訪ねてー平成12年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国研修報告ー	村田和弘	15	共同研究 京都府内における奈良・平安期の集落構造について	柴暁彦	37
平成12年度発掘調査略報			平成13年度発掘調査略報		
19. 池上遺跡第8次・池上古里遺跡第2次	田代弘・岡崎研一・野島永	23	11. 愛宕神社古墳	石崎善久	45
20. 佐山遺跡第2次(B-1地区)	森島康雄	25	12. 桑原口遺跡第6次	福島孝行	47
21. 内里八丁遺跡	引原茂治	27	13. 里遺跡第2次	小池寛	49
22. 椋ノ木遺跡第4次	藤井整	29	14. 里遺跡第3次	松尾史子	51
23. 木津城山遺跡第4次	筒井崇史	31	15. 保津車塚古墳第2次	戸原和人	53
長岡京跡調査だより・77	竹井治雄	33	16. 下植野南遺跡	増田孝彦	83
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		35	17. 木津川河床遺跡第14次	松尾史子	57
センターの動向		36	18. 三山木遺跡第4次	引原茂治	59
受贈図書一覧		38	19. 古屋敷遺跡	黒坪一樹	61
第81号	2001.9.26		府内遺跡紹介 91. 竹野川河口域の遺跡群	石崎善久	63
平成12年度下植野南遺跡(上層)の発掘調査	石井清司	1	長岡京跡調査だより・80	竹井治雄	65
弥生墳墓における甕の副葬作法について(2)	福島孝行	9	センターの動向		67
共同研究 古代の官衙と官道	伊野近富・村田和弘	17	受贈図書一覧		69
平成13年度発掘調査略報			第84号	2002.6.26	
1. 常盤仲之町遺跡	小池寛	29	重要文化財に指定される金箔瓦	森島康雄	1
2. 長岡京跡右京第697次・東代遺跡	柴暁彦	31	平成13年度京都府埋蔵文化財の調査	伊野近富	5
3. 市田齊当坊遺跡	野島永・野々口(高野)陽子	33	陝西省・河南省の遺跡を訪ねてー平成13年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国研修報告ー	高野陽子	13
長岡京跡調査だより・78	竹井治雄	35	平成13年度発掘調査略報		
センターの動向		37	20. 新堂池古墳群	引原茂治	21
受贈図書一覧		39	21. 池上遺跡第12次	中川和哉	23
第82号	2001.12.26		22. 案察使遺跡第4次	福島孝行	25
佐山遺跡第3次の発掘調査	竹原一彦・伊賀高弘	1	23. 太田遺跡第14次	小池寛	27
木津城山遺跡の発掘調査とその成果	筒井崇史	9	24. 芝山遺跡	柴暁彦	29
沖田遺跡出土の縄文・弥生土器	中川和哉・山口早苗・松田早映子	15	25. 薪遺跡	竹原一彦	31
久我畷の発掘調査	中島(松尾)史子	23	26. 赤ヶ平遺跡第2次	筒井崇史	33
共同研究 方形周溝墓の成立	藤井整	31	長岡京跡調査だより・81	竹井治雄	35
平成13年度発掘調査略報			財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		37
4. 東禅寺古墳群	田代弘	41	センターの動向		38
5. 杉北遺跡第7次	戸原和人	43	受贈図書一覧		40
6. 長岡京跡右京第704次・井ノ内遺跡	柴暁彦	45	第85号	2002.9.26	
7. 内里八丁遺跡第17次	石尾政信	47	佐山尼垣外遺跡の縄文晩期中葉土器	柴暁彦	1
8. 女谷横穴C支群	村田和弘	49	平成13年度発掘調査略報		
9. 稲葉遺跡第7次	中川和哉	51	1. 高梨遺跡第2次	石尾政信	10
10. 井手寺跡・栢ノ木遺跡	野島永	53	2. 下植野南遺跡(土辺地点)	増田孝彦	11
長岡京跡調査だより・79	竹井治雄	55	3. 女谷横穴群(B支群)	岩松保	13
センターの動向		57	4. 荒坂遺跡	小池寛	15
受贈図書一覧		59	5. 荒坂横穴群(A・B支群)	村田和弘	16
第83号	2002.3.28		6. 御毛通遺跡	中川和哉	18
荒坂横穴B・C支群の調査	岩松保	1	7. 畑ノ前遺跡第6次	柴暁彦	19
椋ノ木遺跡第5次の調査成果	河野一隆	11	府内遺跡紹介 92. 今里大塚古墳	辻本和美	21
亀岡盆地で認められた地震の痕跡	寒川旭	15	長岡京跡調査だより・82	竹井治雄	23
近畿地方北部における古墳成立期の墳墓(3)	野島永・高野陽子	25	センターの動向		26
			受贈図書一覧		28
			第86号	2002.12.26	
			共同研究 古墳時代中期における製塩土器研究の現状と課題	小池寛	1

平成14年度発掘調査略報					
8. 大成古墳群・イリ遺跡	石崎善久	13	府内遺跡紹介 95. 右京の旧石器時代遺跡	中川和哉	32
9. 山田黒田遺跡	村田和弘	15	長岡京跡調査だより・85	伊賀高弘	34
10. 野条遺跡	田代弘	16	財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		36
11. 内里八丁遺跡第5次	河野一隆	17	センターの動向		37
12. 東原遺跡	中村周平	18	受贈図書一覧		39
13. 二又遺跡第2次	岡崎研一	19	第89号	2003. 9. 30	
14. 三山木遺跡第5次	岡崎研一	21	大山崎町土辺古墳の家形埴輪	石井清司	1
研究ノート 無垢の喪失―新しい前・中期旧石器時代の研究のために―	中川和哉	22	共同研究 京都における石器石材の獲得とその利用	中川和哉	3
府内遺跡紹介 93. 塩谷古墳群	奥村清一郎	29	平成15年度発掘調査略報		
長岡京跡調査だより・83	小山雅人	30	1. 三角古墳群	岡崎研一	15
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		32	2. 里遺跡第6次	小池寛	16
センターの動向		33	3. 内田山遺跡・内田山古墳群(第4次)	筒井崇史	18
受贈図書一覧		35	研究ノート 城陽市芝山遺跡の土地利用について	小池寛	19
第87号	2003. 3. 28		府内遺跡紹介 96. 長岡京左京二条三・四坊	野島永	23
池上遺跡の発掘調査	中川和哉	1	長岡京跡調査だより・86	伊賀高弘	25
大淵遺跡第4次の発掘調査	戸原和人	5	第96回埋蔵文化財セミナー	辻本和美	27
八幡市女谷・荒坂横穴群における改葬の実例	岩松保・上田真一郎	9	センターの動向		29
平成14年度発掘調査略報			受贈図書一覧		31
15. 木橋北城跡	石尾政信	21	第90号	2003. 12. 26	
16. 福知山城跡	引原茂治	23	池上遺跡の方形周溝墓の景観復原	中川和哉	1
17. 観音寺遺跡	黒坪一樹	25	鱈付円筒埴輪の形式分類とその変遷	筒井崇史	7
18. 太田遺跡第15次	小池寛	27	平成15年度発掘調査略報		
19. 長岡京跡右京第750次・神足遺跡	藤井整	29	4. 野条遺跡第8次	田代弘	19
20. 下植野南遺跡(門田・五条本地点)	引原茂治	30	5. 池上遺跡第16次・野条遺跡第9次	中川和哉	20
21. 木津川河床遺跡第15次	増田孝彦	32	6. 芝山遺跡	柴暁彦	21
22. 赤ヶ平遺跡第3次	筒井崇史	33	府内遺跡紹介 97. 畑ノ前遺跡	辻本和美	23
府内遺跡紹介 94. 大住車塚古墳・大住南塚古墳	村田和弘	35	長岡京跡調査だより・87	伊賀高弘	25
長岡京跡調査だより・84	小山雅人	37	「第20回小さな展覧会」について	伊賀高弘	27
センターの動向		39	センターの動向		29
受贈図書一覧		41	受贈図書一覧		31
第88号	2003. 6. 26		第91号	2004. 3. 26	
平成14年度京都府埋蔵文化財の調査	石井清司	1	共同研究 丹後地方弥生墳墓における祭祀行為について―墳墓祭祀からみた赤坂今井墳丘墓―	石崎善久	1
共同研究 弥生時代水晶製玉作りの展開をめぐって	河野一隆・野島永	7	平成15年度発掘調査略報		
平成14年度発掘調査略報			7. 今井古墳	岡崎研一	13
23. 竹野遺跡・宮遺跡	田代弘	17	8. 大垣遺跡・一の宮遺跡・難波野条里制遺跡	石尾政信	15
24. 大垣遺跡・一の宮遺跡・難波野条里制遺跡	石崎善久	18	9. 岡ノ遺跡第2次	戸原和人	16
25. 新堂池古墳群第2次	竹原一彦	19	10. 観音寺遺跡	黒坪一樹	17
26. 里遺跡第5次	小池寛	21	11. 池上遺跡第17次	中川和哉	19
27. 平安京跡右京一条三坊九・十町(第10次)	村田和弘	22	12. 河原尻遺跡	竹原一彦	20
28. 長岡京跡右京第753次・井ノ内遺跡・上里遺跡	増田孝彦	23	13. 高梨遺跡第3次	田代弘	22
29. 芝山遺跡	柴暁彦	24	14. 長岡京跡右京第787次・友岡遺跡	竹井治雄	23
30. 内里八丁遺跡第19次	引原茂治	25	15. 内里八丁遺跡第20次	引原茂治	24
31. 魚田遺跡第6次・西村遺跡・門田遺跡	中村周平	26	16. 片山遺跡第2次	筒井崇史	26
32. 薪遺跡第4次	竹井治雄	27	資料紹介 天王山古墳群B支群1号墳経塚	森島康雄・村田和弘	27
33. 椋ノ木遺跡第6次	森島康雄	28	長岡京跡調査だより・88	伊賀高弘	31
34. 片山古墳群	筒井崇史	30	センターの動向		33
35. 内田山遺跡・内田山古墳群	筒井崇史	31			

第92号	2004. 6. 28			12. 池尻遺跡第5次	石崎善久	23
平成15年度京都府埋蔵文化財の調査	長谷川達	1		13. 案察使遺跡第6次	中川和哉	25
共同研究 庄内式甕の出現	高野陽子	9		14. 長岡京跡右京第829次・友岡遺跡	竹原一彦	27
平成15年度発掘調査略報				15. 長岡京跡右京第830次・上里遺跡・井ノ内遺跡	増田孝彦	29
17. 園部城跡第5次	田代弘	23		16. 薪遺跡第6次	柴暁彦	31
18. 馬路遺跡第3次	村田和弘	24		17. 片山遺跡第3次	筒井崇史	33
19. 三日市遺跡第3次	石崎善久	26		府内遺跡紹介 101. 高槻茶臼山古墳	奥村清一郎	35
20. 時塚遺跡	小池寛	28		長岡京跡調査だより・92 センターの動向	伊賀高弘	37
21. 案察使遺跡第5次	中川和哉	29			39	
22. 長岡京跡右京第781次・神足遺跡	松井忠春	30		第96号	2005. 6. 30	
23. 長岡京跡右京第795次・井ノ内遺跡	増田孝彦	31		平成16年度京都府埋蔵文化財の調査	小池寛	1
24. 長岡京跡右京第799次	岩松保	32		池尻遺跡第7次(D地区)の発掘調査－奈良時代の遺構を中心に－	石崎善久	9
25. 薪遺跡第5次	高野陽子	33		奈良岡遺跡再整理報告(2)－擦切施溝分割痕跡の残る石器について－	石井智大	15
26. 西ノ口遺跡	柴暁彦	34		平成16年度発掘調査略報		
府内遺跡紹介 98. 鳥居前古墳	中川和哉	35		18. 上安久城跡	田代弘	21
長岡京跡調査だより・89	伊賀高弘	37		19. 馬路遺跡第4次	村田和弘	22
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		39		20. 時塚遺跡第10次(G～J地区)	岡崎研一・黒坪一樹	24
センターの動向		40		21. 長岡京跡右京第825・840～842次・友岡・伊賀寺・下海印寺遺跡	岩松保	26
第93号	2004. 9. 28			22. 内田山B1号墳・内田山遺跡	筒井崇史	28
豊饒の井戸－糞尿と稲の儀礼－	岩松保	1		府内遺跡紹介 102. 長岡宮宝幢跡	辻本和美	30
共同研究 古代日本海沿岸地域における土器様相の比較検討(上)	筒井崇史・村田和弘・松尾史子	13		長岡京跡調査だより・93	伊賀高弘	32
平成16年度発掘調査略報				財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧		34
1. 門戸古墳群	石尾政信	29		センターの動向		35
2. 木津川河床遺跡第16次	柴暁彦	31		第97号	2005. 9. 30	
3. 上人ヶ平遺跡	筒井崇史	33		椿井遺跡の調査と山城の高地性集落	高野陽子	1
府内遺跡紹介 99. 奈良遺跡群	石崎善久	35		共同研究 古墳時代集落の圍繞施設について	小池寛	7
長岡京跡調査だより・90	伊賀高弘	37		案察使遺跡出土の縄文土器に関する科学分析	中川和哉	17
センターの動向		39		平成17年度発掘調査略報		
第94号	2004. 12. 28			1. 車塚遺跡第7次(A・B地区)	引原茂治・黒坪一樹・福島孝行	25
時塚古墳・時塚遺跡第6次の発掘調査	福島孝行	1		府内遺跡紹介 103. 園部城跡(園部陣屋跡)	中川和哉	29
共同研究 古代日本海沿岸地域における土器様相の比較検討(下)	筒井崇史・村田和弘・松尾史子	11		センターの動向		31
平成16年度発掘調査略報				第98号	2005. 12. 28	
4. 三角古墳群第2次	伊野近富	31		川から出てきた石剣	中川和哉	1
5. 三日市遺跡第4次	森島康雄	33		奈良岡遺跡再整理報告(3)－軟質緑色凝灰岩製管玉制作について－	望月誠子・小山雅人	7
6. 椋ノ木遺跡第7次	高野陽子	35		平成17年度発掘調査略報		
府内遺跡紹介 100. 史跡・蛇塚古墳	竹原一彦	37		2. 上安久城跡	田代弘	15
長岡京跡調査だより・91	伊賀高弘	39		3. 園部城跡	中川和哉	17
センターの動向		41		4. 宮津城跡第12次	石尾政信	19
第95号	2005. 3. 31			5. 諸畑遺跡第4次	福島孝行	21
奈良岡遺跡再整理報告(1)－翡翠・ガラス製品－	大賀克彦・望月誠子・戸根比呂子・小山雅人	1		6. 長岡京跡右京第856次・友岡遺跡	戸原和人	23
平成16年度発掘調査略報						
7. 大垣・一の宮・難波野条里制遺跡	石尾政信	13				
8. 岡ノ遺跡第3次	戸原和人	15				
9. 園部城跡第6次	田代弘	17				
10. 諸畑遺跡第3次	福島孝行	19				
11. 時塚遺跡第8次	村田和弘	21				

府内遺跡紹介 104. 湧田山1号墳	石崎善久	25
長岡京調査だより・94	伊賀高弘	27
第102回埋蔵文化財セミナー	辻本和美	29
センター設立25周年記念特別展をふりかえって	辻本和美	33
センターの動向		35
第99号		
内田山遺跡・内田山古墳群(第6次)の発掘調査	竹原一彦	1
古墳時代後期における葬送儀礼の実際	岩松 保	5
平成17年度発掘調査略報		
7. 難波野条里制遺跡	石尾政信	19
8. 田辺城跡第26次	田代 弘	21
9. 岡ノ遺跡第4次	松井忠春	23
10. 案察使遺跡第7次	中川和哉	25
11. 長岡京跡右京第852次・下海印寺遺跡第23次	岩松 保	27
12. 長岡京跡右京第863次・神足遺跡	戸原和人	29
13. 史跡名勝笠置山	伊野近富	31
府内遺跡紹介 105. 牧正一古墳	竹原一彦	33
長岡京調査だより・95	伊賀高弘	35
センターの動向		37



左：創刊号 右：第56号(本号からA4サイズに変更)

編集後記

本号をもって「京都府埋蔵文化財情報」は通算100号を迎えることになりました。昭和56(1981)年9月の発行から25年の歳月を経たこととなります。

本号では、巻末に創刊号から99号までの総目次を掲載しました。これを見るといかに大勢の方々の執筆、御協力を得て情報誌の刊行が成り立っているか、あらためて感じることができました。編集に係わってきた者を代表して、皆様方に感謝の意を表したいと思います。

100号はあくまでひとつの通過点であり、号を重ねて更に分かりやすく、読み応えのある中身の編集を目指していくつもりですので、これからも皆様方の温かい御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(編集担当=辻本和美)

京都府埋蔵文化財情報 第100号

平成18年7月31日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141



KYOTO
ARCHAEOLOGY CENTER